

「夜間中学の必要性、意義、あるべき姿を考える」シンポジウム

2026年4月、待望の公立夜間中学が栃木県に設置されます。公立夜間中学は「市民も参加してつくっていく学校」です。夜間中学の必要性、意義、あるべき姿を様々な角度から語り合います。

2024年7月15日(月)

14時～16時半(開場13時半)

会 場：栃木県ガス会館

(栃木県宇都宮市東今泉2丁目1-21)

共 催：宇都宮大学国際学部附属多文化公共圏センター「多様な学び研究会」

とちぎに夜間中学をつくり育てる会

特定非営利活動法人とちぎ自主夜間中学

後 援：栃木県教育委員会

協 力：夜間中学校と教育を語る会



Center for the
Multicultural
Public
Sphere

Working Paper 2024 No.2

「夜間中学の必要性、意義、あるべき姿を考える」 シンポジウム

参加無料

2026年4月、待望の公立夜間中学が栃木県に設置されます。公立夜間中学は「市民も参加してつくっていく学校」です。夜間中学の必要性、意義、あるべき姿を様々な角度から語ります。

2024年7月15日（月）14時～16時半（開場13時半）

会場：栃木県ガス会館
（栃木県宇都宮市東今泉2丁目1-21）

司会：仲田和正
（とちぎに夜間中学をつくり育てる会）
片桐雅義
（とちぎ自主夜間中学宇都宮校）

開会の挨拶

田巻松雄（とちぎに夜間中学をつくり育てる会）
スエヨシ アナ（多様な学び研究会）

I部
語り

「夜間中学生の語り」
秋元伸一（東京の公立夜間中学の卒業生）
村山 エマリン（とちぎ自主夜間中学宇都宮校学習者）

II部
講演

工藤慶一（札幌遠友塾、北海道に夜間中学をつくる会）
「札幌市公立夜間中学設置前史と“準備過程並びに開校以後”における自主夜間中学との協働」
討論者：田巻松雄

III部
座談会

「夜間中学の必要性、意義、あるべき姿」
川村滋（とちぎ自主夜間中学宇都宮校）
関本保孝（夜間中学校と教育を語る会）
吉富志津代（NPO法人たかとりコミュニティセンター）
佐々木一隆（とちぎに夜間中学をつくり育てる会）

閉会の挨拶

佐藤勝宏（特定非営利活動法人 とちぎ自主夜間中学）

共催：宇都宮大学国際学部附属多文化公共圏センター「多様な学び研究会」

とちぎに夜間中学をつくり育てる会、特定非営利活動法人 とちぎ自主夜間中学

後援：栃木県教育委員会

協力：夜間中学校と教育を語る会

問い合わせ：田巻松雄（090-7731-9345）tamakimmm@yahoo.co.jp

参加申込

QRコードから申し込んでください



事前申し込みは特に必要ありませんが、準備の都合上申し込みいただけますと大変助かります



仲田 和正(司会者)

本日はシンポジウムにご参加いただき誠にありがとうございます。

司会進行を担当します「とちぎに夜間中学をつくり育てる会」の仲田和正です。どうぞよろしくお願ひします。本日は、NHKやとちぎテレビ、下野新聞社などの撮影および取材が入る予定になっています。皆さんのご理解とご協力をお願いします。

このシンポジウムは、「夜間中学の必要性、意義、あるべき姿を考える」というテーマについて議論を深めるために開催されるものです。

まず初めに、「とちぎに夜間中学をつくり育てる会」の田巻松雄代表より開会の挨拶をさせていただきます。



開会の挨拶

田巻 松雄

「とちぎに夜間中学をつくり育てる会」の田巻です。本日、特定非営利活動法人とちぎ自主夜間中学、宇都宮大学国際学部附属多文化公共圏センター「多様な学び研究会」との共催でこのようなシンポジウムを開催できることを嬉しく思います。どのくらいの人に参加いただけるか、楽しみでもあり不安でもありましたが、先ほど参加者95人と聞いて、大変喜んでます。改めまして、本日までご参加いただきまして誠に有難うございます。

夜間中学はどのような学校であるかについていろいろな捉え方が出来るかと思いますが、「こんばんは!の挨拶から始まる学校」がとてもシンプルで分かりやすいと感じます。全国の公立夜間中学は夜に授業をしていますし、全国自主夜間中学の大半も夜に学習活動を行っています。集まってくる面々は「こんばんは!」と挨拶して、その日の学びが始まります。「こんばんは」という挨拶というか言葉はなんだかどンドン自分になじんできて、あるいはしっくりくるようになり、とても自然に口から出るようになり、時には時間帯に関係なく使いたくなる言葉となっています。これはおそらく自分の頭や身体の中での夜間中学の存在がとても大きいことを反映しています。本日のシンポジウムも「こんばんは!の挨拶から始まる夜間中学の必要性、意義、あるべき姿を考える」シンポジウムです。なので、本会の開会のあいさつとしても、まだ14時ですが、「こんばんは!」と言いたいと思います。今から「こんばんは!」と言いますが、シーンとされると盛り上がりがないので、皆さん大きな声で(そんなに大声でなくて良いのですが)、「こんばんは!」と言い返してください(笑)。

「皆さん、こんばんは!」(会場「こんばんは!」)。



夜間中学はどのような学校であるか、2点目として指摘しておきたいのは、あるべき姿として、「市民も参加してつくっていく学校」ということです。この点はまさに本日のシンポジウムの中心的なテーマです。チラシに「2026年4月、待望の公立夜間中学が栃木県に設置されます。公立夜間中学は『市民も参加してつくっていく学校』です。夜間中学の必要性、意義、あるべき姿を様々な角度から語り合います」と書きました。公立夜間中学は市民の側からの期待や要求によってつくられてきたという歴史があります。また、夜間中学で学ぶ学習者はまさに市民と言えます。「市民も参加してつくっていく学校」は、札幌遠友塾や北海道自主夜間中学交流会等々の報告書を読んでいた時に、まさにこれだ!と感じたものです。『2023年度 北海道夜間中学交流会記録集』の中に工藤慶一さんが書かれている文章で、「公立夜間中学と自主夜間中学との交流 『ことはじめ』」というタイトルの2ページの文章があるんですね、そこに「市民がつくっていく学校」と書かれています。

最後になりましたが、今回のシンポジウムについて栃木県教育委員会の後援を頂くことが出来ました。有難うございました。また、夜間中学校と教育を語る会のご協力も得られました。有難うございます。福島や神奈川など県外からも応援に来ていただいています。今回のシンポジウムで楽しく学びたいと思います。皆さん、よろしくお願いいたします。

仲田 和正

続きまして宇都宮大学国際学部附属多文化公共圏センター「多様な学び研究会」 スエヨシ アナさん お願いします。

スエヨシ アナ



宇都宮大学国際学部教員のスエヨシ アナです。国際学部附属多文化公共圏センターが2020年度に立ち上げた「多様な学び研究会」の代表をしております。国際学部は長年外国人児童生徒の学習や高校進学に関する研究を行ってきました。そのうえで、より多様な学びのニーズにこたえるために役立つ研究と活動を行うために、本研究会を立ち上げました。本研究会には教育学部の教員や大学院生なども参加しています。本研究会は「とちぎに夜間中学をつくり育てる会」と協力して「誰でも、いつからでも、いつまでも」学ぶことができる学習教室を毎週水曜日に行っています。また、夜間中学に関する研究会を開催してきました。私はペルー出身でもととの専門はラテンアメリカの政治経済についてなんですけれども、国際学部勤めてから日本で学ぶペルー人児童生徒、並びにペルーに帰国したペルー人生徒に関する研究をしてきました。

ペルーの教育制度について簡潔に紹介させていただきます。普通基礎教育は小学校6年間、中



学校の5年間で構成されています、しかしこの普通基礎教育を受けてない、受けることができない人が相当数います。2021年に実施された全国アンケートによりますと、15歳以上のペルー人、約826万人は基礎教育の共通学習を全く受けてないか中退しています。そのうち代替的基礎教育という学び直しの機会を得た人は約21万人で、基礎教育を必要とするペルー人の約2.6%にとどまっています。つまり、私の母国であるペルーでも基礎教育を十分に受けられない人が実にたくさんいるわけです。その学び直しの現状を知り、国際比較の観点から学び直しの問題を考えていくこともとても重要です。「多様な学び研究会」は共催団体として本シンポジウムに参加できることをとてもうれしく思っています。「とちぎに夜間中学をつくり育てる会」の田巻松雄先生と佐々木一隆先生、とちぎ自主夜間中学の片桐雅義先生と北島滋先生は国際学部のOBの先生方です。先生方が学びの場をつくり育てる市民活動に積極的に関わっている姿を見て、現役の私達ももっと頑張らなければならないと思っていますところでは。

私自身日本の夜間中学については知らないところが多いので、本シンポジウムを通して学んでいきたいと思っております。また、本シンポジウムで夜間中学に関心を持つ様々な人びとにとって良き交流の場になることと思います。本日はシンポジウムに参加して頂きましてありがとうございました。

I 部 夜間中学生の語り

仲田 和正

それではこれより、I部「夜間中学生の語り」に移らせていただきます。このシンポジウムにふさわしい素晴らしい方が来てくれました。ご紹介を澤井留里さん、お願いします。



澤井 留里(紹介者)

こんばんは、私は夜間中学校と教育を語る会の澤井と申します。秋元伸一さんは東京都墨田区立の文花中学校を2004年に卒業しました。私も一年だけ一緒に勉強しました。2003年に発表された森監督の「こんばんは」という映画があるんですが、この中に先生や仲間たちに「伸ちゃん・・・」と言われていたのがこの秋元伸一さんです。それからすでに20年、その秋元さんも様々な人生の出来事をかいくぐって今日、皆さんの前に登場してくれました。本当に素晴らしいことだと思います。現在、彼は私たちの夜間中学校と教育を語る会の事務局員として目覚ましい活躍をしてくださっています。以上です。・・・



秋元 伸一

こんばんは。私は東京の夜間中学を卒業しました秋元です、よろしくお願いします。宇都宮の餃子、とてもおいしかったです(笑い)。私は小学校5年生から中学3年生まで不登校でした。5年間不登校だと、普通だったら引きこもりになったりすると思うんですけど、私は両親の理解もあり、引きこもりにならずに済みました。両親が引きこもりにならないように一緒に買い物とか、お父さんが休みの時は一緒に釣りをしたりして、外に連れ出してくれたんで、それで引きこもりにならずに済んだのかなと思っています。あと担任の先生が不登校だった私のことをすごく理解してくれていて、何回も家庭訪問に来てくれました。私は話さなかったんで、お母さんが代弁してくれて、お母さんと話してくれていて、中学校の3年間ずっと担任の先生と交換日記をして、そういう感じになりましたね。



夜間中学校を知るきっかけというのは昼の中学校の担任の先生が紹介してくれて夜間中学があるということを知りました。私も正直、夜間中学を知らなかったんで、両親も知らなかったんで、どういう学校かなというのはあったんですけども。教育機会確保法っていうのは2016年ですかね、できたんですけども、私はずっとその前なんで、卒業証書をもったらもう夜間中学は入れないっていう時代だったんです。なので、昼の中学校を除籍してもらって夜間中学に入ることになったんですよね。それで私は本当は4月に入るはずだったんですけど、私は昼間の中学校を除籍する数か月前に文花中学入ることが決まったので、多分6月くらいに入ることになりました。当時の夜間中学っていうのは教師とか生徒の垣根を越えて、あのう、家族みたいな関係でしたね。私はずっと不登校でずっとしゃべらず、両親以外とはしゃべれなかったんですが、先生とか生徒は良くしてくれたなと思っています。

私が夜間中学に入って、1年目は給食を食べずに2時間で帰っていました。一年間ずっとお母さんに付き添ってもらって、私が授業受けてるとき、お母さんは別の部屋で待っていてくれて、それが一年続いたんですよね。ふつうは、昼間中学校でこういうことしていたら、「あいつだけ」って言われそうなんですけども、夜間でも多分思っている先生とか生徒はいたと思うんですけども、まあ、一時間で帰っていたり、行事も一年目は殆んど出てなかったんです。私だけ、当時の文花中学ではそれだけ特別だったのかなと思って、でもそう思ったにしても黙ってくれていたんで、私としては通いやすかったです。私は一年半くらい一言も言葉をしゃべらず、必要な事でさえ首を縦に横に振るだけでなんで。まあ、先生達はこれではまずいかなと思っています。

そこで、養護の先生、原田先生っていうんですけども、その先生が声を出す練習してみないかって言ってくれて、それで声を出す練習を一人、国語の授業を一人別の所で、読む練習を半年間くらいしまして、それで2年目の秋くらいですかね、みんなの前で初めて、まあ映画を見ればわかるんで



すけど、それで初めて声を出せました。

夜間中学に通ってみて、楽しいこととか、つらいことはたくさんあったんですけど、今考えればそのすべてが、私の今の将来に必要なことだったかなと思っています。それがあったから高校、大学と行けたし。今、働いていますから、夜間中学に通ったことで、結果論かもしれないんですけど、私にとってはまあ、必要なことだったかなと思います。

夜間中学を卒業したあと高校に通ったんですけど、高校は昼夜間定時制高校というところに通いまして、夜間中学では、みんなあの、80代、90代の方と一緒に勉強していたんですけど、高校に入ってから、ほとんどが、というか全員が私より年下になるんですよ。私は18歳で夜中を卒業したんで、ふつうは16歳で入る場所なんでそういう人がたくさんいたんで。でもまあ、夜間で人との繋がりの大事さとか、後はコミュニケーションとかたくさん学ぶことができたんで、高校では入学してすぐに友達を作ることができました。その高校の一期生だったんで、部活とかもなにもない状態で始まったんで、そこでまあ、えらそうなことになりすけど、テニス部を一から私がつくりました。部員とか、顧問の先生とかも集めて、それで3年間やることができました。夜間中学で私は人とのつながりというか、関わり方とかコミュニケーションとかだけで、一緒に勉強の仕方とかはなかったんで、多少はしたんですけども、高校に行ってから、すごくその辺は苦労したんで、これから夜間中学に通う方たちは夜間の勉強だけではなくて、やっぱり自分のうちとかでも復習とか予習するとかはやっぱり大事なかなと思います。とくに、高校とか、大学とかに行きたいなと思っている人にとって、それは特に必要かなって思いました。

大学は4年制の大学に行きまして、経営の勉強をしました。本当は大学に行って野球をやりたくて、野球のサークルに入りまして、4年間続くなと思ったんですけど、人間関係ちょっと失敗しちゃってやめちゃったんですけども、4年間大学に通うことができました。そのあと働くんですけども、最初に働いたのはコールセンターの仕事をしました。そこで9年間やりまして、そのあとは現在の仕事なんですけども、清掃の仕事をしてまして、今4年目ぐらいです。

今日は田巻さんには夜間中学の魅力を話してって言われたんで、自分の思う限りみたいなことを話してみたいと思います。夜間中学の魅力とは不登校とか、引きこもり、外国籍の方とか、戦争で義務教育を受けられなかった人とか、年配の方とか、現役で仕事をしていて昼通えない人達とか、様々な事情で通えない人達と一緒に学ぶことができるのは夜間中学しかないのかなと私の中では思います。そこでまあ、人生のいろいろな勉強とかができるかなと思います。夜間中学って名前なんで、皆さん、中学の勉強しかしないんじゃないかなって皆さん思われる方いると思うんですけど、そんなことはなくて、小学校の勉強からすることができまして、もっと言えばひら仮名、英語だとABCからできます。高校とか大学に行こうとしている人とかは難しい勉強する人もいますし、クラスによってというか、1人ひとり勉強する内容っていうのは一人ひとり違うので、そこに通う人たちにそれに必要な勉強ができるかなと思います。

3週間前に私、ある神奈川県で特別講師として講義することがありまして、そこでこういう



質問が出てたんですよね。昼の中学校って、体育祭とか文化祭とか、修学旅行とか、普通にあると思うんですけど、夜間中学にも同じように体育祭とか、文化祭とかあるということにびっくりしたというんですね。昼間の中学と同じようにやるって、夜間中学を知っている人はこういうものなんだなって思うんですけど、要は昼間の中学とおなじようにやるっていうのが、知らない人と知ってる人のギャップが相当大きいかなくなって思いました。そういう、やっぱり知ってる人と知らない人がいるっていうのは大きいかないと思います。なので、そういうところはこれから伝えていく必要があるんじゃないかなって思いました。

今現在、僕は夜間中学校と教育を語る会で、全国に夜間中学をつくるため、知ってもらうために活動しています。今回の栃木のシンポジウムも最初は行きたくないなあって、正直あったんですけど(笑い)、でも、私、田巻さんと会うの初めてだと思うんですよね。夜間中学校と教育を語る会に所属していたからこそこういう場で話することになりました。あとは、「えんぴつの会」っていうのがありまして、どんな活動してるかっていうと遊びに行ってるって感じですけれども。鎌倉にも同じような「えんぴつの会」っていうのがありまして、そこでも引きこもりの子がいるので、そういう子に会いに行ったりしています。私は、講師として勉強教えているわけじゃないんですけど、「こんばんは」の映画のつながりもありまして、いろいろな活動をしています。

あとは、今日Ⅱ部で工藤さんが話すと思うんですけど、工藤さんとともに国会とかいろんなところに行ってますし、私の発言が役に立つかはわからないんですけども、話をさせてもらっています。ではこれで、私の話は以上です(拍手)。

仲田 和正

秋元伸一さん、ありがとうございました。次の語りは、フィリピンの小さな島から日本にやって来た、とても頑張り屋さんです。ご紹介を戸井田公子さんお願いします。

戸井田 公子(紹介者)



皆さんこんばんは。私は「とちぎに夜間中学をつくり育てる会」の戸井田公子です。村山エマリンさんの紹介をします。エマリンさんはフィリピンから日本に来て11年目になります。現在は栃木県立宇都宮工業高校定時制課程に在籍し、勉強に励んでします。日曜日の夜はとちぎ自主夜間中学宇都宮校に通って私達と一緒に勉強しています。昨日もエマリンさんが私の隣で勉強していて、その姿がとても尊く見えました。エマリンさんは家庭においては男の子



2人の母親として育児と勉強に毎日頑張っています。今日は2人のお子さんにご主人も見えています(拍手)。

エマリンさんはとても家族思いです。エマリンさんの弟さんがフィリピンに住んでいらっしゃいますが、フィリピンの家族、弟たちもエマリンさんは見守っています。エマリンさんは日本の伝統文化である茶道や着付けなどのお稽古に頑張っています。そして日本の文化の理解を深めています。いろいろなことに前向きに取り組むエマリンさんのお姿を見て、私も勉強させていただいております。

エマリンさんと夜間中学の皆さんを通じまして、私は一緒に学んでいくことの大切さを、共に学び、共に学び続けることの大切さを教えていただきました。これからも一緒に学んでいきたいと思っています。本日シンポジウムにおいでくださいました皆様、ありがとうございます。ここで結びの一句、「夜間中学で結ぶ希望の輪」、皆さんで「心の輪」繋いでいきたいと思っています(拍手)。

村上 エマリン

私はとちぎ自主夜間中学宇都宮校と出会って高校に進学することができました。宇都宮校の皆さんと出会っていなかったら高校に行けなかったと思います。そして高校に入学した後も、宇都宮校に通っています。私の体験を聞いてください。

私は日本に来て11年目、小学校のALTとして働いていました。ALTとは日本の先生方に協力して、英語に親しむ、英語を好きになってもらえるように働きかける仕事です。もっと良い教え方はないかな、こんな風に実践したら、理解してもらえるかしら、もっと子供たちを引き込めるようになるようにしたい。あれもやりたい、これもやりたい、そんなこんなで3年がたち、ふっと気づくと現状に満足できない自分がいました。

本当はもっと伝えたいのに、日本語の表現が追いつかない。もっと日本語が上手になりたい、スキルアップして授業に生かしたい、そういう気持ちは、本格的に学びたい気持ちになっていきました。そんなある日のこと、主人が「自主夜間中学ができるみたいだよ、だれにでも教えてもらえるんだって、どんな学校かな」と言ってきたので、「えー!?外国人でも教えてもらえるの?でも高いんじゃない?勉強もしたいけど無理ね」と私が言うと、主人が言いました。

「えー!?外国人でも教えてもらえるの?でも高いんじゃない?勉強もしたいけど無理ね」と私が言うと、主人が言いました。

学びたい人が自分のペースで勉強できる学校。

元気が無くて休みたいときは無理せず休んでも勉強を続けられるようにサポートしてくれる学校。

外国人も受け入れてくれる学校。

貧乏でお金を払えなくても教えてもらえる学校。

ボランティアの人たちが勉強の応援してくれる学校。

2021年8月8日、とちぎ自主夜間中学の入学式に胸に花をつけてもらって緊張でドキドキしながら席に座ると先生方の話が始まりました。日本語が難しくって何を言っているのかわからないけれど、式が





進むにつれて先生方の熱意が伝わってきます。ギターを奏でながらの夜間中学の歌、「前を向いて歩こう」の歌を合唱した時、私は心からこの方々のつくる学校に行きたい、しっかり学びたいと思うようになりました。

入学前の面接ではフィリピンでの生活や日本での生活について聞いてもらえました。フィリピンでの生活はつらい思い出が多いです。7歳の時自分で作ったほうきを担いで山を越えて売りに行った時なかなか売れなくて弟が泣き出してしまい、私も泣きたかった。家計を助けるために小学校4年生のころから小学校の先生の家でメイドしてました。皆さんは、メイドを知っていますか？料理や掃除、洗濯などの家事労働全般を住み込みでする仕事で、フィリピンでは子どもがメイドするのは珍しくありません。学校が大好きで高校に行きたくて勉強を頑張ったけれど、日本で1000円ほどの高校の入学金が払えなくて進学をあきらめて大泣きしました。14歳の時貧しさからマニラでメイドとして働きました。マニラまで26時間一人で行くのはとても心細かった。振り返ると10代に計8年間メイドとしてはたきました。クリスマス休みに家族に会えるのが待ち遠しかった。でも、島に帰ると高校に進学した友達が何かよそよそしい。あんなに仲良くしていたのに、態度が変化していて、知らない人に接しているみたいに。私わかったんです。学校に行けないあなたとは違うと思っている。そうね、あなたの家はお金があるから。私はフィリピンでハイスクール行ったのは19歳の時、クラスメイトの多くは卒業したばかりの13歳で私と年が離れていましたが、勉強ができることがうれしくて楽しい日々を過ごしました。

たくさんたくさん聞いてもらい、いよいよ将来の希望のお話です。私は正規のALTの助手になりたい、そのために大学に行き卒業したいです。先生方は試験を受けとめてくださり、調べてくださったのです。フィリピンと日本の教育課程の違いから日本の大学を目指すには日本の高校で一から学び、卒業する必要があると分かりました。日本の高校を受験する！、どうしよう、先生方は「エマリンさん、大丈夫ですよ」中学校を卒業してから5年以上たっている人のための進学するための制度があると教えてくださいました。そして志願書の書き方から、志願書の提出まで応援してくれたのです。

高校に進学するうえで一番心配だったのが数学です。小学校のころから算数が大の苦手で、宿題から逃げ回っていました。私はフィリピンの高校時代も数学から逃げ回っていました。恥ずかしい話ですが日本の小学校の3年生の算数もあやしいほどだった。そのことを先生に相談したところ「とにかく頑張りましょう！」と言ってくれました。そして、自主夜間中学の勉強だけでは足りないからと、特別授業を開いてくださいました。どうしても数学の勉強が追い付かない私に先生は手紙で数学の通信教育までしてくださいました。その手紙には「エマリン様、数学の問題を送ります。急がなくても大丈夫です。解答が終わったら送ってください」と書いてありました。

いっぱいいっぱいだったあの頃、高校進学に向かってうれしくてワクワクしていたのに気持ちが空回りして、不安から家族に当たり散らしたこともありました。そんな時「急がなくても大丈夫です」の言葉が私を楽にしてくれたのです。私のできる範囲で頑張ってみよう、誰かのために諦めなくてもいいんだ、自分の夢に向かって一步を踏み出してみよう。でも、自分の気持ちは解決しても学ぶ環



境は楽ではありません。下の子が熱を出しては「ママ、ママ」と泣き叫び、上の子はクラスでいじめにあって大学病院で検査を受けるほど体調を崩しました。遠く離れた島の家族から、父さんが殴られて寝込んだ、おばあさんが蜂に刺されて大変だ、妹は学校の課題がこなせないと泣いて電話をかけてきます。私は一人しかいないのに、家事や育児とともに勉強もストップしてしまいます、また自主夜間中学に行った時も、一緒に来た子ども達は歓声を挙げて建物内を走り回ります。「もう来ないでください」って言われたらどうしようって、ごめんなさいと小さくなる私に「私たちが見ているから大丈夫ですよ」と声を掛けてくれました。自分たちではどうすることも出来なかった上の子のいじめ問題も親身に相談に乗ってくれたおかげで解消されました。今では学校大好きとスキップしながら登校していきます。歓声を挙げて建物内を走り回っていた子ども達も、ちゃんと座って数遊びや算数を学べるようになりました。

自主夜間中学が私たちを受け入れてくださったおかげで今日まで学び続けることができたのです。定時制高校の入学式の時に撮った写真は私の宝物、さくらの木の近くで撮った写真には制服ですまし顔の私が笑っています。生徒会の一員にも加わり、勉強に、運動にも充実した毎日を送っています。特に日本語能力試験の1級に合格すること、そして大学に進学することを頑張っています。

最後に、私は子どもや夫のいる日本が大好きで一緒に幸せに暮らしていきたい。そして日本に来た多くの国の人々にも日本人とともに平和に暮らしてほしい。相手を知り、自分を知ってもらい、互いに認め合えるようになればいい。いろいろなことが楽しく、やさしく学んでいる自主夜間中学でこれからも学び、自分の夢に向かって頑張ります。そしていつか少しでも手伝いができるような自分になりたいです。皆さんありがとうございました。

仲田 和正

秋元伸一さん、村山エマリンありがとうございました。以上をもちまして、I部の「語り」を終了いたします。

II部：講演

仲田 和正

引き続き、II部の「講演」に移らせていただきます。今回のシンポジウムのために、北海道から夜間中学に関するエキスパートが来てくださいました。北海道に夜間中学をつくる会・札幌遠友塾自主夜間中学の工藤慶一さん、よろしくお願いいたします。

工藤 慶一

皆さんこんばんは、北海道弁では「お晩でございます」。伸ちゃんとエマリンさんのメッセージに心が揺れています。夜間中学について、これから私の話も聞いてもらいたいと思います。私はレジ



メを用意してありますのでそちら参照して頂ければと思います。札幌で遠友塾という自主夜間中学を開校してから35年になりますので、開校したとき私は40歳と若かったんですが、現在75歳になりました。

はじめに、今何が起きているか、なぜ札幌に「友」という名で歴史を刻んでいる3つの夜学校があるのか。札幌遠友夜学校という50年続いた学校、そして札幌遠友塾という自主夜間中学、35年目ですね。



それから札幌市立星友館中学校という公立の夜間中学校が3年目です。同じ札幌の大自然の中で友と名の付く夜学校がなぜあるのか、不思議だと思いませんか。次になぜ札幌遠友塾という自主夜間中学が公立の中学校の校舎で授業が行えるのか、現在50か所以上の自主夜間中学がありますが、おそらく公立中学校の校舎で自主夜間中学の授業を行っているのは札幌遠友塾自主夜間中学だけだと思いますね。岡山自主夜間中学が一時期一年間、学校を使って授業を行っていましたが、なぜ、そういうことができたんだろう、なぜそういう方向に行ったんだろうか。

次に、札幌市立星友館中学という公立夜間中学が出来たとき、基本計画が発表されました。この本です、2021年3月に確定した文章として書かれています。その中に関係機関等との連携という項目がありまして、その関係機関の一つとして札幌遠友塾自主夜間中学が明記されています。いいですか、公立夜間中学の設置に当たって連携機関として自主夜間中学の名前が載り、しかも指導方法に係る学び合いを含む連携と書かれています。しかし、これはなぜなのでしょう。他で例があるのかもしれませんが、私は知りません。さらに開校以後、公立夜間中学と札幌遠友塾は協働する、いわゆる学び合いの範囲が徐々に広がりつつあり、しかも深くなっている。こういう関係はなぜできるんだろうか。こういう問いを発しながら、述べたいと思います。

そのためにはまず、星友館中学校という公立夜間中学が設置される以前、かなり前のことになりますが、その歴史について考えざるを得ません。まず、札幌遠友夜学校、それは明治27年から昭和19年までの50年間札幌で行われました。明治27年というとちょうど日清戦争の始まった時です。札幌遠友塾自主夜間中学を立ち上げる時、資料がありませんでした。夜間中学ということが札幌にはほとんど知られていません。それで札幌遠友夜学校の跡地にできた青少年センターに遠友夜学校の小さな資料室があります。しかし、保管が悪くて、かび臭いにおいでいっぱいです。その中で様々な資料を見て、調べたことを覚えています。

最終的には昭和19年に閉校になったわけですが、これは遠友夜学校で軍事教練をやれと言って、兵隊が来てですね、ボランティアの学生に拳銃を突き付けたという事実から、もう駄目だということで閉校になったということです。しかし、とても残念です。少なくとも何年か遠友夜学校さえ健在で



あってくれば、北海道がこれほど、義務教育未修了者が全国一ということにはならなかったのではないかと今でも残念でなりません。終戦後、特に昭和20年の東京大空襲の後に閣議決定された、被災者の受け入れ先として北海道開拓という方針が出され、それから戦後になってこれも閣議決定された外地から引き揚げてきた人の受け入れ先として決定され、特に満州開拓団の人たちが組織的に引き上げてきた人たちの四割が北海道開拓に入ったという事実があります。

昭和20年からたった6年間で北海道の人口は90万人も増えたんです。今北海道の人口は500万人強ですよ。なんでそんなことがね、急激に起きたのか。これも閣議決定の方針通りになって、しかも結果としてですね、山間僻地に入っちゃったんですよ。炭鉱に入るんですよ。離島に入るんですよ。そうするとですね、子どもも一緒にいて、なおかつ近くに学校が無いという事情もありますし、子どもも働くという事情もありまして、学校に行けない子どもが非常に多い。ですから、2020年の国勢調査で、義務教育未修了者全国一という数字になるんですよ。それに対して遠友夜学校がもう既がない。漸く札幌遠友塾という自主夜間中学が1990年に札幌市民会館で開校したんです。参加者はあとからあとから増え、100名を超え、120名ぐらいになりました。スタッフは10数人ぐらいしかいない、でもやらなければならないという事情の中でやってきました。そうして、10数年たって、突然沸き起こった問題は会場にしていた札幌市民会館が耐震構造の問題で5年後の2007年に解体するという新聞記事が載って、それ以来都合7年間、札幌市と長い長い交渉に入りました。しかし、うちがあきませんでした。解体の時期が迫ってくる、そして次から次から生徒さんはあとからあとから増えてきて、最終的には生徒さん、スタッフ含め150名、4つの会議室を使って授業を行う、ということになっていきました。おいそれと対応できる民間施設はなかなかないんです。

どうしようかと悩み、私は病気にもなりました。しかし、私たちは2007年の5月に、「北海道に夜間中学をつくる会」というのを立ち上げて、北海道と札幌市に公立夜間中学の設置を含む5項目の要求をしました。以来この要求は15年にわたり、続けております。具体的には議会に出します。札幌市議会と北海道議会の全会派、全会派ですよ。全会派の文教委員の方をお願いに行き、時にはその会



派の幹事長のところに行ってお願いを繰り返しました。そして、2008年2月の札幌市の文教委員会で陳情審議が行われましたが、これは残念ながら廃案でした。でもこの時があってはじめて議員の方たちと接することができて、私たちはすべての会派の議員の方と友達になるという回路をここで得たわけです。これは非常に後々役に立っていきました。

そして、2009年の4月に、札幌市立向陵中学校という校舎を使って授業ができるということになりました。そのために私たち、生徒さんたちも必死になって書けない文字を書いて、ひらがなだらけの文字を書いて、あるいは



賛助会員を含めてたくさんの仲間が札幌市、あるいは市長、それから教育委員会、等々に要請書を書きました。特に生徒さんが書いた要請が一番響いたと札幌市教委の方が言っていました。2012年には札幌市議会と北海道議会で、夜間中学の法律を作ってほしいという国への意見書を提出し、これが通りまして両議会とも国への意見書を提出いたしました。同じように、2014年には国勢調査の教育欄の項目改正を求めて、この意見書も通りました。この時の札幌市議会については陳情という方向で、国勢調査については総務委員会が担当だったので、総務委員会で私が陳述をし、議員の質問を受け、その後議員が各総務担当に意見を求めるということを繰り返し、議事録に残すということと、それからその内容を札幌市民に伝える。物事を判断するのは市民であって、役所単位ではないんですよ。判断を市民に仰ぐということをしないうまくいかないと思ったからです。逆に札幌市民に話をすると「こういうことをやってるんだったら、当然札幌市からお金が出てるんでしょ」と言われる。出るはずがないですよ、そうすると話を聞いた市民の人は絶句してしまう。市民の常識は正しいんですよ。その正しさを引き出すためには議会を通さなければいけないということが、私たちがとった行動です。そしてさらに、国会での院内集会在2012年から2015年まで毎年開かれ、そして夜間中学の議員連盟ができて、教育機会確保法という法律が成立しました。

ここから一気に時代が変わって来るわけです。そして、いよいよ札幌市の公立夜間中学の開設過程、ここで最も大切な教訓を引き出すことができるんです。私たちが札幌市議会の本会議に「公立夜間中学の速やかな設置を求める陳情」を再度行いました。そして2017年2月7日の文教委員会で私達たちの陳情が全会一致で可決され、2月27日の本会議で公立夜間中学の設置が採択されたんです。本会議で公立夜間中学の設置が採択された。じゃ、いつ具体的にやるのかとなった時、今度札幌市と道教委とがキャッチボール始めたんです。そっちでやれ、そっちでやれって、非常に焦りましたよ。松戸と川口では、続々と開校して、札幌だけが遅れてしまって悔しさいっぱいです。いよいよ、2019年2月、札幌市の長谷川教育長が本会議で「夜間中学の設置を検討する」という答弁を初めて行いました。

4月の札幌市長選の時、二人の市長の候補が公立夜間中学の設置を公約に掲げました。立候補2人ですからどっちも設置するという方針を立てました。そしてさらに一番大切だったのは札幌市の教育委員会に夜間中学の専任担当ができました。それまでに無かったんですよ。柴垣さんという方でした。彼のやったことは、毎週上靴もって、向陵中学校に来るんですよ。そしてね、どんな公立夜間中学作ったらいいか教えてほしいって、毎週来るんですよ、半年以上、そんな人います？後に、文科省の2022年の7月にオンラインの夜間中学設置説明会で柴垣さんが発言しているんですが、「最終的にはどうしてもできないことがあっても、喧嘩するかもしれないけど、まずは理想の公立夜間中学は何か教えてほしい」と。この姿勢なんですよ。何か教えてほしいというこの姿勢そのものが、自主夜間中学と公立中学の協働作業の始まりではないかと思うんです。

そして、同じ年の9月に長谷川教育長が本会議で「2022年の4月に公立の夜間中学を開設します」と言う答弁を行いました。そして、年末の12月から翌年2020年の1月まで、札幌市教委はアン



ケート調査をするんです。一般的に行われているような公民館とかに置くだけではダメなんですよ。的を絞ってやんなきゃいけないですよ。札幌遠友塾自主夜間中学、これは生徒さん、卒業生、賛助会員、スタッフ全部に対してです。数百名、700名くらいになりますね、それから若者支援総合センター、これは若者の就労支援をしているところで、結果的にやはり学校がなきゃいけないというんで連携を深めていきました。それから外国人の支援組織、国際プラザ、この方たちも非常に本当にいろんな問題が出てきたときにやはり聞きに来る人が非常に多くなったと言ってます。それからフリースクールの関係団体、これもいくつもあるんですけど、この方たちにもアンケートを依頼しHPにも掲載しました。こういう形で、遠友塾で直接私達から聞いた内容等をもとに、それから全国の公立夜間中学を調べたうえで札幌市教委がたたき台の設置案を作りました。

いよいよ2020年の6月から7月にかけての4回に分けて公立夜間中学のあり方検討会というのが、8名の外部検討委員を交えて、札幌市教委の支援のもとに始まったわけです。私もその中の一人になります。小学校の校長代表、中学校の校長代表だとか、札幌市立大通高校の校長、それから先ほど言った若者支援総合センター館長、外国人支援組織の代表、それから学識経験者として座長を務めた北海道教育大学の先生、この方は元札幌市の教育部長を務めた方、それから北海道大学教育学部の若手の先生、この方はよく遠友塾に見学に来ていました。この方たちと私たちは検討を重ね、一つの共通理解に達しました。市教委は一切口を挟まなかったですよ。聞かれたら答えま、あるいは責任をもって議事録をつくるっていう作業は、専門家を呼んでつくるってことはしましたけど、口は挟まなかった。僕らの結論に任されました。

だんだん話し合っていくときに、辿り着いた共通の感覚は、市民総ぐるみでつくるんだという、夜間中学をですよ、そういう認識が生まれたんです。①総ぐるみでつくるんですよ、市民みんながつくるんです、という感覚。②それから当事者第一、これは生徒さん第一ということです。③常に変化し続ける学校。毎年、毎年生徒さんが入ってくるんです。違った生徒さんが入ってきますから、違った生徒さんに対応するという、常に夜間中学は変化し続けなければいけない、だからその仕組みも必要だということです。こういう共通理解です。それが、いよいよこの本に明文化されたんです。この本は結論書いてありますけど、私は4回の検討会議の議事録、結構な分量になりますけど、これは何か問題があった時、もう一回原点に戻って確かめてみると、すばらしい資料だと思うんです。今、はっきりいってね、夜間中学のバイブルと思うぐらいの4回分の議事録です、これはHPに載っていますんで、もし、調べたい方がいたら是非お調べいただきたい。そして2021年の2月にパブリックコメントが実施され、ここでも一つ重要な進歩があるんです。修業年限については6年で終わりっていうやり方に対して、200を超える意見がありまして、6年ではダメなんだ、要するに自主夜間中学の経験から10年以上かかる人が必ずいるはずだからその時どうするかっていう意見。そこで上限は原則6年とした。これは原則だから変えていいよってことになる。10年でもいいよってことです。これがはっきりしたわけです。いよいよ、2021年の6月に基本計画が発表され名前が正式に発表され名前を星友館中学校とし、そして校歌が決定したわけです。なお校章を決めるに際して全札幌の全中学



生に募集をかけたんですよ。中学校2年の女生徒が素晴らしい校章をデザインして、今校章になってまして新聞に載るんですね。こういう素晴らしいことが次から次から生まれました。校歌も半崎美子さんという素晴らしい歌唱力を持った歌い手がありますのでその方に作っていただきました。

開校した後、実際に札幌遠友塾と星友館中学とはどういうやり取りがあったかということについてですが、現在、遠友塾の卒業式には星友館中学の工藤真嗣校長(同じ工藤っていうんですよ、時々間違われるんですよ)が来てくれて祝辞を述べる。星友館の卒業式には、今まで2回あったんですが、現在の遠友塾代表の黒澤さんが行って祝辞を述べる。それから大きいのが私はそれまで毎年一回9月に北海道自主夜間中学交流会で、4つの自主夜間中学の生徒さんたちが集まって生徒さんの体験発表会をするんですが、その中に星友館中学校の生徒さんたちも入っています。それで自主という言葉を取って「北海道夜間中学交流会」という名前に変えて、2022年から最初のあいさつは工藤校長にしてもらって、星友館中学の報告は教頭にやってもらい、また星友館中学の生徒さんが一人体験発表するという地域代表の一つとして札幌・函館・釧路・旭川と同様に、発表していただいています。

それから常に変化し続けるという必要性から、何を仕組みとして持つか。評議員会・関係者評価委員会とかに私と遠友塾の黒澤代表の2名が参加し、今年から統合して運営協議会となったんですが、大事なのはそこで、私達の意見を言うことができるということ、それから生徒の代表が参加しています。生徒代表は今年度から7名、そのうちの半分は遠友塾の出身の生徒です。去年までは4名、4名のうち3名は遠友塾出身の生徒です。

今年から、ボランティアスタッフ、遠友塾の授業風景を見てこれは必要だと思ってボランティアスタッフを20名配置したのですが、まだ足りないと言ってさらに20名増やし、40名体制にして、一人が曜日別に週に一回入っています。札幌遠友塾のスタッフは水曜日以外の曜日に5名に分けて入って、それから星友館の臨時教員が1名入っています。それからですね、大事ですが、星友館中学には優れた就学支援制度があるんです。要するに学齢期の子どもたちに提供されている就学援助と同等の制度が星友館中学に設けられた。そして生活保護を受けている人がいましたので、教育扶助の手続きも全部、たとえば所得証明とかいろいろありますがこれは札幌市が全部代行してやります。もちろん先生と一緒にいくというケースもあります。3割程度の生徒さんがその恩恵にあずかっている。しかし肝心の遠友塾には無かったんですね。でも年金生活の中で車で遠くから通う人もいて、駐車場代が結構かかる。けっこう大変なんですよ。で、これできないかというんで、内規を改めて私たちは遠友塾なりのできる範囲での就学援助制度を始めました。現在その恩恵受けてる方が3名、判断は各クラスに任せられます。みんなで討論してみんなで決めるんじゃなくて、これはクラスで、クラスならわかるんです。だからそこで決める。それを制度としてやるということになります。

それから星友館中学に遠友塾出身の生徒さんが18名も入りましたので、特に評議員会とかで現役の生徒さんたちが声を大にしていったのはスクールカウンセラーはものすごく大事だということです。「若い人が増えてるから、スクールカウンセラーが週に2回来るんですけど、予約がいっぱい



でなかなか順番回ってこない、でも大事なんだよ。」という話をすごくするんですよ。で、これは大変だと思いましたね。実は基礎教育保障学会の今年の研究大会が神戸大学で開かれますが、2日目の午前中の特定課題研究で、この星友館中学のスクールカウンセラーに来ていただいて、実際の所をお話していただいて、私たちも遠友塾にそれを取り入れたいと思います。さらにその時は同時に、神戸に在住する重度の障害者の教育に携わるスタッフの方が来て話してくれます。そういうのを私たちは学びたいと思います。他にもいろいろありますけれど、いずれにしても、最も大切なことは市教委そのものが学ぼうという姿勢があるということ、それから市民みんなで作るんだという共通認識、常に変化し続ける仕組みをもつということ、やはり人と人との付き合いが一番大切なのだと思いました。

田巻 松雄(討論者)

工藤さんありがとうございました。まず、「討論」という言葉を使っていますが、「挑む」というような気持ちは全くありませんので、そのようなイメージはもたないでください(笑)。工藤さんからお話しいただいたことを踏まえて僕らが考えていかなきゃいけない課題はたくさんあるんだということを変更して感じましたが、そういうスタンスで何点か申し上げたいと思います。

まず、お話の中にありました2020年6月～7月にかけて、札幌で公立夜間中学に関するあり方検討会議が4回開催されたことに関してです。2か月で4回ですから、非常に集中的に議論されたわけです。これ、HPで見れるようになっていまして、実は先月29日にオンライン研修で工藤さんにご報告いただき、今日も来ていただくということで、改めて読んでみました。非常に熱い



議論がされていて、読むのに数時間かかります。なので一挙には無理かもしれませんが、一回一回かみしめて読むとあるべき姿ということについて非常に多くのヒントが伝わってくるんですね。これを読みましたときに今日も言われてましたけど、①市民みんなで作る学校、②当事者第一、③常に変化し続ける学校のしくみというのが検討会議の議論の中から共通認識として生まれてきた。本当にいろんな角度から検討を尽くした過程で出来上がった認識ではないかなと思うんです。で、そのうえで、少し個人的な考えを言わせていただきますと、今の話があった3点というのは、公立夜間中学の話でもあるし、自主夜間中学の話でもあると思いますね。ぼくは、公立夜間中学のあるべき姿を考えるとということと、自主夜間中学のあるべき姿を考えることは切り離せない、同時進行で、一緒に語っていかねばいけないと思ってるんです。そうしないと学び合うことにならないし、それぞれの固有の意義を明確にするということにもならない、繋がっていかないんだと思うんですね。



ですから今日のシンポ°のテーマに即して考えて、あるべき姿というのは公立夜間の話でもあるし、自主夜間の話でもある。そういうふうに考えています。

そういう意味で、今日用意した資料のなかに、Ⅱ部討論というところの一枚紙がありますが、その紙にいくつかメッセージを書いておきました。これは、公立と自主の在り方を考えるときに非常に多くのヒントを与えてくれたメッセージであって、それを常に思い出すために、皆さんにも提起をしたいということで、書かせていただいたことです。

一つ目の「自主夜間中は面白くなかったら次回からもう来ない」。これは強烈なメッセージであると思います。本当に関心を持ってきてくれる方々に「来てよかった、また来たい」と思えるようなものを提供し続けていくということの大事さと難しさを語っているんじゃないかと思うんです。『生きる、闘う、学ぶ』という本の中に書かれていることです。

それから真ん中にあるのは、見城慶和さんが1998年ですかね、書かれた言葉なんですけども、「学びの場とはこうあるべきだと言うことを示す場として自主夜間中学をどんどんつくっていく」。こういう積み重ねが実は公立夜中のあるべき姿を示すうえでも豊富なポイント・論点を提示しているということにつながっているだろうと思うわけですね。

それから最後にありました2023年の北海道夜間中学交流会のなかに掲載されていた言葉ですけども、「生きた学校」として常に変化し続けるという、今までにない言葉ではないでしょうか。「生きた学校」を育てていくということでは公立も自主も問われているわけです。しかし、なかなか簡単にできることではないので、学校をつくり育てていくという考えを一緒になっていつでも学び合いながらつくりあげていくことの大事さを改めて確認する必要があるということをお願いしたいと思います。

それを踏まえて、公立と自主のとちぎならではの在り方がこれからほんとうに2年間、あるいは開校後も問われていくと思います。僕としては今まで栃木に25年ぐらゐ暮らししてきましたが、今が一番楽しいというか、とちぎに住んでいっしょにつくって行く、そのような段階に来たのかなと、そういう中で自分もちょっと前向いて行きたいなと思ってますんで、ぜひいろんな場で皆さんと語り合い、学び合い等をしていきたいと思います。工藤さん改めまして貴重なお話ありがとうございました。

仲田 和正

これより、Ⅲ部の司会進行を、とちぎ自主夜間中学宇都宮校の片桐雅義さんにバトンタッチいたします。

よろしく申し上げます。



Ⅲ部 座談会「夜間中学の必要性、意義、あるべき姿」

片桐雅義(司会)

関本保孝(夜間中学校と教育を語る会)

川村滋(とちぎ自主夜間中学宇都宮校)

佐々木一隆(とちぎに夜間中学をつくり育てる会)

吉富志津代(NPO法人たかとりコミュニティセンター(兵庫県))

片桐 雅義

今から、座談会を始めます。4名の方に登壇いただいています。まず、短い時間で恐縮ですが、それぞれ10分程度で、必要性、意義、あるべき姿について自由に語っていただきます。その後、それぞれのご報告の内容について質問や意見を出し合うという形で進めたいと思います。それでは、関本さんからよろしく願いいたします。



関本 保孝

栃木県で県立夜間中学をつくるとしたらこんなことが必要なんじゃないでしょうか、という私なりの見解を示します。ここに4つの話を書かれていますので、レジュメに沿って話したいと思います。どんな生徒が夜間中学で勉強しているのか。毎年、全国夜間中学校研究大会が開かれています。私も1978年の時から夜間中学で約36年中国帰国者、外国人に日本語を教えてきました。この冊子の一番後ろにデータが出てるんですね、ですからこのデータの詳細を知りたい方はお求めください。「2023年度 第69回全国夜間中学校研究大会 大会記録誌」より、それに基づいた結果を資料にまとめてあります。

一番目は、現在の夜間中学生の数で、去年、2023年9月現在のデータです。44校で1824人でした。このうち、既卒者・卒業証書持っている人が577名、31.3%。実は2015年7月30日の文科省のすばらしい通知までは30年近く卒業証書もらっちゃうと、文部省はなんて言っていたかという、「2回税金使えません」と言っていました。30回以上私、交渉に出ましたんで、ここはいい意味で180度転換しました。でもずーっとゼロだったんです。2016年からずーっと入ってきて、ここまで増えました。

既卒者で見ると日本人が多いんですが、A「新渡日外国人」1070人、B「日本人」549人、C「在日



韓国・朝鮮人]78人、D[中国等からの帰国者]43人、E[日系移民]5人、F[難民]2人って書いてありますね。新渡日外国人、国際結婚や仕事、中国、ネパール料理人の奥さんの子どもであるとかね、これで61%なんです。とちぎ自主夜中学は大体6割が新渡日ときいています。だから全国の標準ですね。公立の場合は場所柄もありまして、新渡日が多いところ、日本人が多い所とかあるんですが、日本人が一時2割ぐらいだったんですが、既卒者も入れるっていうんで今は約3割ですね。ですからこの二者(日本人と新渡日外国人)で9割、残りの人が1割となります。在日の方、中国残留孤児かつてはすごい数だったんですよ。1500~2000人。今、80,90歳ですから少ないんです。ですから大体、新渡日6割、日本人3割が一般的な人数ってことだと思います。

そして、年代別人数をみると、15歳未満が2名となっておりますよね。これはどこかっていうと、学齢者でも入れるようにと文科省が言っていますが、香川県三豊市の高瀬中に2名いるんです。特例なんです、そこだけです。それ以外は10代後半から20代、それから80代までずーっといます。そして男女別で見ると、実はですね、最近これを出さない学校が多くなったんですが、2021年のデータでは、もともと、男1対女2、私はずーっと学校のデータ集計しているんですが大体男1対女2ですね。というようなことで、ようするにかつて日本でも「女に学問は要らない」という時代があり、発展途上国では現在でも、女に「教育をさせない」ところがあります。そういう世界と日本の過去の歴史ってものを背景にして、男1対女2ってのは生まれたと思います。まあ、こういう風に多様な生徒が勉強しているのが夜間中学です。

二番目です。義務教育未修了者の声。『全国への公立夜間中学校開設を目指した人権救済申立の記録』(2008年12月)からピックアップしています。「病院で受診科がわからない」、「買い物で割り引きが計算できない」。字が読めず駅名が読めず電車の切符が買えない、だから最小の切符を買って出るときに精算するんです。漢字読めないと切符が買えないんです。目的地までの切符買えないんです、等々ですね。

それから、時間の関係でちょっと飛びますが、外国人と子どもの実例ですと、中国から日本の東北地方に来て母親が日本人男性と結婚したが、帯同した子どもが町の教育委員会から学齢超過を理由に昼の中学入学を断られる。県内に夜間中学もなく母子で上京し、夜間中学に入学し高校進学をめざした例があります。20年ぐらい前に世田谷の夜間中学で面接した時、結局母親と男の子が高校進学のため転居していく形になりました。それから岐阜県可児市の実例ですけれども、可児市と岐阜県が共同で支援して中卒認定試験を受けるための支援もやっているんですが、4月に0でスタートして10月末に受験をしようと思っても結局8%しか合格しないんです。スタート時点である程度日本語ができないと合格できない。義務教育未修了者は高学歴日本で本当に大変不便な生活をしている。そして人間の尊厳まで奪われていく。学習権は土台の人権ともいえるものです。学習権の保障無くして基本的人権の保障はないんじゃないかと思います。

三番目、画期的な2016年義務教育機会確保法、これはもう年令、国籍等に関わらず教育機会が確保されるように支援するというものです。これを踏まえた文科省の基本指針では、「個々の生徒の



ニーズを踏まえ小学校段階の内容を含め生徒の年齢・経験等の実情に応じた教育課程の編成、必要な日本語指導充実が必要」と言っているんです。

最後に四番目、今夜間中学に求められること、十分な専任教職員体制が必要、生徒の日本語力を踏まえ、小学校課程クラス、中学校課程クラス、日本語特別支援クラスの設定が必要。札幌星友館中学校でも10人以上専任がいますよね。それ必要なんです、生徒の人数が少なくても。それから入学条件は中学卒でもできるし、最近では文科省は高卒でもケースバイケースで受け入れるということをはっきり文章で残しています。それから仲間からありましたように、専任養護教員、スクールカウンセラー、重要です。それから、給食は重要な食事で必要です。多様な個性を持つ生徒を生かす行事、就学援助、バリアフリー、エレベーター、スロープ、多機能トイレ。それから栃木県、在住在勤者入学可能だそうですが、それ以外からも受け入れてほしいなと思います。

夜間中学は受け入れ救急学校ですので、年間を通して受け入れをぜひ実現してほしい。それから民間団体もあるわけですので、札幌を一つ参考にしながら民間団体との協力関係。それから2校目、3校目が必要です。1校では足りないと思います。それから広く県内の人たちの教育機会確保のための通信制の検討が必要だと思います。

片桐 雅義

関本さんありがとうございました。以上が基礎的なデータ等でした、この後は3人の方にそれぞれの現場及び団体でどういうことに取り組んでいるかを含めてお話をさせていただきたいと思います。それで、今の関本さんのお話に関係するようなこともありましたら、皆さんお願いします。

川村 滋

私も、皆さん、こんばんは。とちぎ自主夜間中学宇都宮校の川村と申します。はじめに宇都宮校をちょっとPRさせていただきたいと思います。とちぎ自主夜間中学宇都宮校は「とちぎに夜間中学をつくり育てる会」が2021年8月に開校した自主夜間中学です。その後も支援いただき運営にあたってきましたが、まもなく3年を迎えます。宇都宮市の東生涯学習センターにおいて、昨日もやったんですが、毎週日曜の午後6時から約2時間学習活動を展開しております。

学習者の登録なんですが、3年間で約90名登録しまして、本年度は23名だと思います。私達スタッフはパートナーと呼び合っていますが。約50名でやっております。これまで3年間やってきましたけれども、田巻さんがおっしゃったように楽しくなくちゃ夜間中じゃないので、楽しい学校づくりを目指しています。

私の方から今の関本さんのご発表を受けて、関本さんの発表の中に一番目にどんな生徒が夜間中学で学んでいますかという話がありましたが、そんなことも頭に置きながら夜間中学の必要性について、テーマを一つに絞って話をしたいと思います。

栃木県の背景となるデータ、数値をまず紹介したいと思います。まず直近の国勢調査でいうと、



本県の義務教育未修了者は13,793人と14,000人近くいます。全国的にみると、真ん中へんぐらいですけどね、県内では那珂川町ぐらいの人口ということです。ですから相当な人数が、義務教育未修了者として存在しているんだなということでございます。外国人の登録者数につきましては昨年12月末のデータによると4474人、これはだんだんと増加傾向になっております。

3つ目に、不登校の児童生徒、小中学校の児童生徒さんなんですが、令和4年度の問題行動調査によりますと栃木県は5,137人の児童生徒が不登校になっていて、これは10年連続過去最高を記録しておりまして大変重いですね。こうしたデータを見ていくと、栃木県において本当に夜間中学のニーズが高い状況にあるんだと思っております。そこでですね、私が述べたいのは、行政の皆さんにはですね、潜在的な入学希望者、夜間中学に向かう潜在的な入学希望者をいかに掘り起こすか、こういった努力をしていただきたいと思いますし、それは当然きめ細かで、広く・深く取り組んでもらうことが必要だと私は考えております。

片桐 雅義

栃木県における基礎的なデータは夜間中学にニーズがあるということを示しているということですね。それでは次に佐々木一隆さん、よろしくお願いいたします。



佐々木 一隆

私は川村さんと同じように自主夜間中学に3年ほど関わっていますし、宇都宮大学国際学部附属多文化公共圏セ

ンターの「多様な学び教室」でも学習応援活動をしております。私の話は三つあります。一つ目は、夜間中学での学びの意義と楽しさということです。二つ目は自主夜間中学と公立夜間中学の連携に関すること、三つ目はあるべき姿ですね。これら三つについて述べたいと思います。

まず、一つ目の夜中での意義と楽しさですけれども、外国籍、不登校等のいろいろな事情で学校に通えなかった方々に対して思うんですが、いわば少数派の方々だと思うんですが、澤井さんが講演等で語られているように「生きる力を育む」というところがまず大事だと思っております。夜間中学は自主と公立両方がありますけれども、「生きる力を育む」は夜間中学に限らず、あらゆる教育活動、学習活動において大切なことだと考えています。理解できたよこびや発見の興奮、学習活動を通じて互いに得られた達成感、心地よい共感の場、そういったことが該当するかと思います。個別学習が基本の宇都宮校や多様な学び教室で実感している次第です。私は大学人だったんですけども、大学での論文指導にもそうした共通性があることを紹介しておきます。



学習内容と方法については、まず学習者さんがどういうことを期待しているのか、その内容をきっちりと確認することから入る。併せて、方法も工夫・検討していくという方向性が重要です。自主夜間中学は1対1の個別学習が基本で、公立夜間中学は(卒業証書授与等に係る)制約があって集団が基本だと思うんですが、自主夜間中学の精神というか姿勢を公立夜間中学も持っていただきたいなと思います。それが一つです。

二つ目の自主と公立の連携についてですけれども、これについては工藤さんの興味深いお話がありました。栃木県の場合には2年後の4月に開校予定ですので、現在、開校準備過程にあります。開校後は少し先の話ですが、自主夜間中学のボランティアが公立中学を応援するっていうのは一つあるかなと思いますし、その他にも県内には多くの多様な学びの場、あるいはそれに類する県内の組織がありますのでそこからの応援も考えられます。それから田巻さんのおっしゃる「市民も参加してつくっていく学校」、それを目指していくのが公立夜間中学に求められるということです。最後に三つ目は、あるべき姿です。これは工藤さんのお話の中で札幌遠友塾と星友館中学の連携ですね、それ以外にも向陵中との連携もありましたけれども、やはり常に変化し続けるというのが大事でこの精神が無いとだめになるなと思います。

具体的には、栃木県の特徴、地域の特徴を踏まえたうえで、学習者、学習内容の多様性に合う取り組みが必要であろうと思いますし、その時には学習者第一、当事者第一が重要です。学習者への姿勢は、寄り添うというか、尊重・尊敬の念を持つことが大切です。また、学習者と応援者の関係というのは固定的ではなく、むしろ応援者が学習者から学ぶこともあることを認識すべきで、応援者はパートナーも学び続けないと枯れていくと思います。栃木県では今、栃木駅に近い県立学悠館高校内に県立夜間中学ができるということになりましたので、その設置場所のメリットを十分活かす必要があるなというように思います。中高の連携というのも校内でできるかもしれませんが、交流もできるかもしれない。学悠館高校は定時制と通信制の2つの課程がありますので、特に定時制高校と夜間中学との交流もできますし、高校進学という連携も考えられます。あるいは県立夜間中学ですので、全県を見据えた運営ということでオンライン授業の試行だとか実施、それから自主夜間中との交流などもできるというように思います。進路を就職も含めてですね、大局的にとらえる必要があると思います。高校進学に留まらず、大学の進学も視野に入れるべきだと思います。工藤さんと関本さんもおっしゃっていましたが、スクールカウンセラー(SC)の配置もあります。SCのことはかなり重要になってくると思います。

片桐 雅義

公立夜中のあるべき姿というところに入ってきて、この後討論に入るかなと思います。それでは次に吉富さんからお話を伺います。



吉富 志津代

それではみなさん、こんばんは、私は実は兵庫県の神戸市からやってきました。ちょっとだけ、たかとりコミュニティセンターというところの説明をさせていただきます。

阪神・淡路大震災から30年になるんですけれども、そのときの救援活動がきっかけとなっている活動が始まりました。多言語の情報提供とか、外国につながる子どものこと、それからブラジルルーツ、スペイン語圏ルーツ、ベトナムルーツの人などそれぞれの外国人コミュニティの自立支援、や外国人自身でラジオ局—今はユーチューブ配信になりましたけど—を立ち上げて多言語番組を放送したり、それからアジアの女性の自立支援ですとか、介護ですとか、いろいろな切り口で震災後の復興のプロセスで多文化共生のまちづくり活動を続けて、ここが拠点になっております。10の団体がそこで活動しているところです。

私の本日の役割ですけど、皆さんお手元にある黄色い紙の「多様な学びの場をつくる」という本を田巻さんに声かけていただいて編集に関わらせていただいて、そこで夜間中学というようなこともしっかりと読ませていただきまして、もっと学びたいと思って今日はほんとに学ばせていただくと思って参加させていただいた次第です。

もうひとつの学びの場ということでは、夜間中学という大きな柱と別な柱として私たちが実施しているのは、例えば外国ルーツの子どもの学習支援とか、母語教室です。ベトナム語、スペイン語、ポルトガル語とかを、その保護者たちが中心になった形で、その子がしっかりと強い言葉を持てるように、日本語をしっかりと習得するためにも、母語学習教室を開催するという運営をずっと25年ぐらいいしてきました。先ほどの佐々木さんのお話にもあったように、生きる力をつけるということのために、もちろん日本社会のいろいろな学びも必要ですし、言葉、つまり強い言葉を一つも持たないということが一番子どもにとってつらいので、そのためにはもちろん母語を修得することは重要ですし、ここは日本ですから日本語も大事ですが、その子が考えるために使う言語ツールとしての母語というものが大事だと思っていて、そういうことに関する取り組みをずっと続けてきました。

その子が日本の学校では委縮してしまったりついていけなくなったり、不就学・不登校になったりする、そういう受け皿にたぶん夜間中学はなるんだろうと、そういう役割を果たしているんだろうと、今の話を聞いていて思います。連携、そういったNPOの支援活動と夜間中学というところの連携がすごく必要だなという、そういうことを思いながら聞いておりました。

そういう強い言葉をひとつも持たない子が、つまり母語を学ぶことで日本語を理解するということがありますので、一緒に活動をする保護者とか関わる市民団体とかと一緒に繋がっていくことが大事なのではないかなと思います。

もう一つ私が気になっているのはその、受け皿としての夜間中学と別に、いま増えていて課題になっているのが、言葉の混乱によって授業についていけない人たちが「支援学級とか支援学校に行った方がいいんじゃない」、と善意でそういうふうにする人もいるんですけども、これについても専門家がない中で、支援学級で個別に対応して学ぶ方がその子どものためになるのではないかと、



と判断されて、親が納得をしないままに発達障害の認定を受けるという状況をなんとかしなければなりません。そもそも日本の学校で、どのような子どもも一緒になって学べるような環境に、何とか変えていかなければいけないと本当に思います。

例えば外国ルーツの子どものための受験枠とか、そういう入口の政策も少しずつ進んでいるところもあるんですが、でも入っただけではやはりついていけないってことがあって、きちんと卒業するまでの、形式的卒業ではない形にどういうふうにサポートしていくのか。教育はその子の権利ですし、これは私たち大人が考えていかなければならない、とても大切なことだと思います。少しだけ補足でお話させていただくと、さっきスクールカウンセラー(SC)という話もあったと思うんですけど、実は私が大学で教えているのは社会福祉学科でして、社会福祉分野、つまりスクールソーシャルワーカー(SSW)になるような分野、そういう人たちにこういった現状ですね、夜間中学を含めたいろいろな現状があるということをしっかり伝えていくということが必要だと思って、今そちらの方に力をいれているところです。ぜひ今後ともこういう連携が進めばいいなと思います。以上です。

片桐 雅義

座談会ですから全員の方の間のやり取りというのが必要なんですけど、第三部・座談会はあと15分しかないんです。それなので4人の方のやり取りにお任せするのがいいかなと思っております。まず、関本さんから他の方にコメントとか、質問とかありましたら、あるいはなんか聞きたいなと思ったらやり取りをしていただきたいと思います。関本さん、今のは外国にルーツを持つ生徒さんへの支援についてでしたが、いかがでしょうか。

関本 保孝

私は1978年の9月から偶然なんですけど、36年近く中国残留孤児の方、新渡日外国人に、日本語を教えてきたんです。もともと社会科の免許なんで、3年で出ていこうと思ってたんですが、ミイラ取りがミイラになって36年、4つの夜間中学でやってきたんですね。日本語教育はもともと素人だったんですけど、いろいろ勉強しながらやってきたんですよ。で、今三百数十万人に外国人が増えてきた、ということで、国勢調査の2020年調査、90万人の義務教育未修了者がいる。その中の「小学校卒」とは別の未就学者とは学校に全く行ったことがない方あるいは小学校中途退学者です。栃木県でいうと「小学校卒」が12,145人、「未就学」が1,648人、したがって13,793人の義務教育未修了者がいる。最終学歴小卒を見ると全国的には10代後半から50代前半までは、外国籍の方が多いんです。だから私が推測するのは1990年に入管法が改正されて日系人が産業労働者として入国できるようになったのが今から34年前、その時に10代後半から20代が入ってきてそれから34年ですよ。そういう人たちがともかくお金を稼いで故郷に送金するということでがむしゃらに仕事をしてきて、夜間中学がそういうところにはないですよ。夜間中学は東京、大阪周辺と広島だけで、東海地方とか、群馬・栃木などなかったです。そういう学ばずべもなく、そういう風な学歴



状況になったというね。でも今後のことを考えるとそういう人たちにも公的な学びの場を提供するべきだと思います。ぜひ、文科省のサイトからも見られますので。そういう小卒の外国人が50代ぐらいまで多いという。そこから未来のことを考えると、ご自身とかあるいは次の世代を考えるとやはりきちんとした体制をつくらないとどこかでつげが回ってくるということが言えますよね。

ですから栃木県も詳細を調べればすぐ出てくると思いますので、外国人にとっても日本語や、あるいは小中学校の学習支援をする客観的な根拠が明確になってきているんじゃないかなと思います。それ、公的な問題です。自主夜中もいろいろな成果を提供しながら、やっていったらどうかなと思いますね。

話は飛びますが、見城さんは墨田区で2003年から「えんぴつの会」をやってるんですが、私も退職後に2014年からボランティアとして入っています。同じ墨田区にも公立夜間中学がありますが、高齢の夜間中学卒業生の継続学習の場になったり、さらに高校に行きながら高校の数学がわからないから高校の数学を教えてほしいとかね。また、毎日は夜間中学に通学できない方が週2回なら通えると「えんぴつの会」に来る方もいます。だからそんな形で公立があり自主があることによって学びながら、あるいは継続学習のためにも大きい裾野ですよ。そういう意味でも栃木県で公立ができればそういうチャンスが増えるのでそれはいい状況じゃないかなと思います。

片桐 雅義

佐々木さん、宇都宮大学で多文化公共圏センターのなかで「多様な学び教室」の取り組みをやられていますよね。外国籍の方が多いですね、そこでも外国出身の方が主ですか？

佐々木 一隆

はい、主です。そうですね、日本人の方もいらっしゃいますけども大半は外国籍の方ですね。スリランカで中学卒の資格だけは持っているんですけども、こちらに来て高校進学を夢を叶えようとして、学習を続けていくというそういう方もいます。

片桐 雅義

今まで外国出身の方の話をしてきましたが、もう一つ夜間中学、公立・自主、両方とも気にかかっているのは不登校だった方々の支援というか、その学習の場ということだと思いますが。川村さん何かありますか。

川村 滋

私たちの自主夜間中学で元不登校だった人が学び直して学んでいる学生さんがいらっしゃいます。見ているとですね、自らがこういう学びが経験できなかったということで私が受け持っている学生さんはそれでマイナスってわけではないですね。勉強そのものをしたいというそういう方もい



らっしゃいます。小中学校全部登校できなかった方で、そういったケースもあります。もう一つの自主夜中に関わった方なんですけど、今40歳ぐらいですね、中学校ほとんど不登校です。会社員・社会人になって、中学を形式卒業して社会人になったんですけど、その後アルバイトしたりしながら結婚されて、そこで自主夜間中学ができるってということで初めから通ったんですけども、もう一度学び直して高校に進学したい、ということですね。宇都宮市にある県立宇都宮商業高校定時制に今通ってます。彼自身も自主夜中で学んだことが生きているので大変喜んでます。交流会の場では子どもたちを連れて参加してるんです。そういった夜間中学の役割ってのが、公立の夜間中学についてもね、不登校の生徒さんも受け入れることができると思いますんで、ぜひそのように検討してもらえたらって思います。

片桐 雅義

吉富さんの所は不登校の支援されているんですか？

吉富 志津代

外国ルーツの子どもたちで学校に行って、遊びの中で会話はできて学習言語がわからないという子たちが多いので、そういう子たちが学校に行かなくなるケースはあります。そもそも親が何年かして母国に帰ろうと思っているような家庭だと不就学のままということもあるので、学校に行っていない子どもたちにどういう教育環境を提供できるのかというのは課題です。そういう子どもたちが母語教室だけ来ていることもありますし、そこで、学習支援だったり、漢字検定だったら何とか取れるんじゃないかとか、そういう子どもたちが関心を持つこと、勉強に限らず自信をもって何か、自尊感情を取り戻すために、例えば動画をつくって発信したり、それからラップをつくって発信したりとか、そういうふうな発信活動をするための機会を作るといようなことはしています。

関本 保孝

不登校なんですけど、秋元伸一さんが2000年代の初めくらいに入学したんですけど、その時にはまだ文科省が既卒者も入学できるという方針を出してなかったんで、文花中の先生が墨田区内の全中学校回って不登校で学校行けない人がいたら3年生の3月末で除籍にしてください、その前に夜間中学を見学したり、試験登校1~2週間体験できますのでそういうことをして、肌に合っているかなど試して入学してくださいと言って回っていました。それで秋元さんは入学したんです。ところが、運動の成果で2015年7月30日に文科省の通知が出て、既卒者が増えたんです。最近のデータでは夜間中学生の31%が既卒者なんです。ものすごく増えたんです。10、20代、たくさんいるんです。ひとつの傾向としては全く中学通っていない、3年の末で卒業証書もらっているんです。それをもちながら夜間中学で仮にドロップアウトしても卒業証書一枚はあるという事なんです。そういうパターンで入学する生徒が各校増えてますね。ですからそれはいいことだと思えます。



ですから新しい時代になってきたということで、栃木県でも中学校を形式卒業した人、そして札幌、東京、相模原等々、高卒卒業証書一応持っているんだけど、小学校の算数がわからないという人がいっぱいいるんですよ。ですからケースバイケースで高卒でも夜間中学入学できるっていう画期的な方針を文科省が出してくれましたんで、ぜひ栃木県で新たにつくるときにね、そういうことも視野に入れる、受け入れを広げてほしいなと強く思います。

川村 滋

今回の提案で夜間中学のあるべき姿につながるかわかりませんが、私の夢を語りたいんです。「夜間中学が私の町にある」、そういう栃木県になってほしいなと思います。近くに夜間中学があるっていうことはね、非常に大事なことだと思うんです。夜間中学を県内くまなくつくりたいです。公立も自主もいろんなところにつくる、それが私の夢なんです。今回はね、栃木県が栃木市に県立夜間中学を設置しますが、県北の方々はなかなか通学が大変なんです。通学できない方も必ずいると思うんですよね。栃木県は広いんで最低でも県央にひとつ、そして県北にひとつ加えて公立夜間中学が3校成立することが、県民や市民の願いではないでしょうか。誰一人取り残さないっていうのが、夜間中学の根本だと思います。根っこにある点ですよ、これは将来の話で予算の絡むことだと思うんですが、栃木県だけでなく自治体の英断を期待したいと思っています。以上です(拍手)。

片桐 雅義

佐々木さんも、吉富さんも最後によろしく。

佐々木 一隆

吉富さんのお話に関連して、母語は大事です。例えば、第二言語としての日本語を学習する場合、その学習者の母語により日本語文法の説明がなされると理解がしやすく、日本語学習の効果も上がると言われます。母語が大事だっていうこと、大事にしていく姿勢が必要だと思います。

吉富 志津代

この日本の教育自体がおかしいとっていて、おそろしい。それを含めてそこに気づきをもたらせるような、そんなことを連携していけたらいいなと思いました。ありがとうございます。

片桐 雅義

もうちょっと話をしたいなというのにもう時間になってしまいました。以上を持ちましてⅢ部の座談会を終わります。



閉会の挨拶

仲田 和正

それでは閉会の挨拶を、特定非営利活動法人とちぎ自主夜間中学の佐藤勝宏さんお願いいたします。

佐藤 勝宏



I部では秋元伸一さんの話をいただきました。そこでやはり、ご両親の愛情と言いますか、それが立ち直りのきっかけであったということでした。それから村山エマリンさんのお話は素晴らしい日本語でびっくりしました。日本語能力試験一級を目指しているということですが、ぜひ頑張ってください。大学進学も実現できることを願っています。

II部では工藤慶一先生が札幌遠友塾の話をしてくださいました。大変参考になりました。

III部では座談会ということで自主夜間中学の必要性、意義、あるべき姿が様々な角度から語られました。

壇上に上がられました関本さんをはじめ、皆さんのご功績に感謝申し上げます。

最後に、県は2026年4月に栃木市にある学悠館高校の中に県立夜間中学を設置することを決めましたが、これに関して2点申し上げたいと思います。

1つは、われわれ自主夜間中学関係者との連携を是非大事にしてほしいということです。新聞報道によれば、県教育長は「宇都宮市と小山市にある自主夜間中学とも連携し、教育機会の充実を図る」と述べています。下野新聞「論説」(2024年2月22日)では、宇都宮と小山両市で経験を重ねてきた自主夜間中学との連携を深めながら、魅力ある学校づくりを進めてほしいと主張されています。われわれ自主夜間中学の経験は3年程度のものですが、協力できるところは多々あると思いますし、喜んで協力したいと考えています。

もう1つは、県内の自治体では義務教育未修了者数が最も多く、2019年の栃木県ニーズ調査で「夜間中学があったら良い」と答えた回答者の約半数を宇都宮市内在住者が占めた事実を踏まえ、人口50万を超える中核市の宇都宮市が夜間中学設置に向けてどのような動きを示すか注目しています。川村滋さんは「夜間中学が私の町にある」、そういう栃木県になってほしいと言われました。全く同感です。まずは、県立夜間中学ともうひとつ宇都宮市立夜間中学ができて宇都宮市と小山市にある自主夜間中学との連携を図りながら、栃木における学びの場の保障と充実を推進していく、そういう展開を強く期待したいと思います(拍手)。



仲田 和正

以上をもちましてシンポジウムを終了とさせていただきます。皆さま、最後までご参加いただき、心より感謝申し上げます。誠にありがとうございました。





工藤 慶一(北海道に夜間中学をつくる会・札幌遠友塾自主夜間中学)

—札幌市公立夜間中学設置前史・開設過程・開校以後の自主夜間中学との協働について—

【I】はじめに(今、起きていることは何か?)

- ・なぜ、札幌に「友」という名で歴史を刻む、三つの「夜学校」が存在しているのか?
- ・なぜ、札幌遠友塾という自主夜間中学が、公立中学の校舎で授業が行えるのか?
- ・なぜ、札幌市公立夜間中学設置基本計画(2021・3)の関係機関との連携等の項に「札幌遠友塾自主夜間中学」が記載されているのか?
- ・札幌市立星友館中学と札幌遠友塾が協働(学び合い)の範囲を広げつつあるのは、なぜか?

【II】札幌市公立夜間中学校設置前史

- ① 札幌遠友夜学校の開校と終焉(1894年～1944年)
- ② 終戦後の北海道(1945年～)と札幌遠友塾の開校(1990年4月)
- ③ ・遠友塾教室場所確保の苦闘(2007年3月市民会館解体→教育文化会館)
・北海道に夜間中学をつくる会開設(2007年5月)→道と札幌市に5項目要求
- ④ 議会に向かう!(2008年2月札幌市文教委員会陳情審議→廃案) **交渉継続**
- ⑤ 札幌遠友塾の教室場所として2009年4月より札幌市立向陵中学校決定!
- ⑥ 夜間中学法成立を求め国への意見書可決(2012年札幌市議会・北海道議会)
- ⑦ 国勢調査教育欄項目改善求め意見書可決(2014年札幌市議会・北海道議会)
- ⑧ 国会院内集会(2012～15年)の後、教育機会確保法成立(2016年12月公布)

【III】開設過程：市教委の当事者に聴く姿勢→協働の始まり

- 札幌市議会本会議「公立夜間中学校のすみやかな設置を求める陳情」
・2017年2/7文教委員会陳情全会一致可決・2/27本会議(陳情第240号)採択
- 2019/2:札幌市長谷川教育長が本会議において夜間中学設置検討答弁
- 2019/4:札幌市長選公約、札幌市教委に専任担当決定(柴垣氏)→毎週の打合せ
「最終的には、どうしてもできないことがあっても、ケンカするかもしれないけど、まずは理想の公立夜間中学が何かを教えてほしい。」
文科省2022年7月夜間中学設置促進説明会における柴垣氏の発言
- 2019/9:長谷川教育長が本会議にて2022年4月の公立夜間中学開設答弁
- 2019/12～2020/1:札幌市教委アンケート調査対象
札幌遠友塾自主夜間中学、若者支援総合センター、外国人支援組織、
フリースクール関係団体、ホームページ
- 2020/6～7:公立夜間中学の在り方検討会議(8名の外部検討委員)
**「市民みんなで作る学校」、「当事者第一」、「常に変化し続ける学校とその仕組み」
という共通理解**
- 2020/12:市立夜間中学計画案 ・2021/2:パブリックコメント実施
- 2021/6～:基本計画正式発表・校名「札幌市立星友館中学」・校章と校歌決定



【Ⅳ】開校(2022年4月)後の札幌遠友塾との協働

(学びの主役は生徒)

- ・ 遠友塾の卒業証書授受式から思うこと→卒業生や修了者の氏名読み上げの際、「～さん」
 - ・ 星友館中学卒業式の国家斉唱について思うこと
- (改善への取組継続)→全国に向けて!**
- ・ 常に変化し続ける必要性から 学校評議員制度などを活用し、適宜改善にむけて取り組む。
評議員会・評価委員会に工藤と黒澤遠友塾代表も参加。今年度から統合し運営協議会へ!
(生徒代表参加・ボランティアスタッフ代表参加)
 - ・ 遠友塾関係者からは今迄に18名入学し、病気のため1名退学、2名卒業
 - ・ 充実した教員配置(2023年度増員)ボランティアスタッフ2024年度増員(40名)
 - ・ 各行事(入学式、卒業式等々)の相互交流 ・ 特別支援学級の設置
 - ・ 北海道夜間中学交流会に星友館中も参加(実行委員会段階から)
 - ・ 星友館中学の就学支援制度に見習い、札幌遠友塾で交通費等支援の内規を整備し実施中
 - ・ 道教委義務教育課主催のオンライン授業試行(星友館中が発信)と社会教育課の取組
 - ・ 遠友塾出身生徒を含む生徒代表の意見として「スクールカウンセラー」の重要性が明確化
- ➡9/1開催の基礎教育保障学会の特定課題研究で星友館中学の鎌田カウンセラー報告予定



佐々木一隆 メモ

I 部 夜間中学生の語り 秋元伸一さん、村山エマリンさん

II 部 講演：「札幌市公立夜間中学設置前史・開設過程・開校以後の自主夜間中学との協働」

工藤慶一さん 討論者 田巻松雄さん：「自主夜間中学の生命線」、自主と公立夜中は切り離せない、公立夜中は市民みんなでつくっていく、生きた学校として…

III 部 座談会「夜間中学の必要性、意義、あるべき姿」15時40分～16時25分

○ 関本保孝さん(10分)夜間中学校と教育を語る会

3つの留意点と栃木県立夜間中学開設にあたり求められる10の必要・重要項目

○ 川村滋さん(5分)とちぎ自主夜間中学宇都宮校

宇都宮校紹介と公立夜間中学への潜在的な入学希望者の掘り起こし、校長としての夢

○ 佐々木一隆(5分)とちぎに夜間中学をつくり育てる会

宇都宮校と多様な学び教室(宇大国際学部附属センターの「多様な学び研究会」)で学習応援活動

(1) 「夜間中学」での学びの意義と楽しさ(外国籍、不登校、学び直し等の様々な事情をもった人たちにも生きる力を育む[澤井さん])

あらゆる教育活動／学習活動において大切なこと:理解できた喜びや発見の興奮、学習活動を通じて互いに得られた達成感、心地よい共感の場など

(例)個別学習が基本の宇都宮校と多様な学び教室、大学での論文指導も同様！ 内容の確認から入り、方法も工夫・検討していく⇒ 集団が基本の公立夜間中学でもその姿勢を大切に(卒業証書授与等の条件にかかる制約はあるが[川村さん])

(2) 自主夜間中学から考える「栃木県立夜間中学」(県立学悠館高校内)との連携

工藤さんのいう開校過程(栃木県の場合2026年4月まで)+開校後も:自主夜間中学からのボランティア応援、その他県内の「多様な学び／多文化共生の場」からの応援、田巻さんのいう「市民も参加してつくっていく学校」をめざす。

(3) あるべき姿(工藤さんの札幌遠友塾と広陵/星友館中学の連携:常に変化し続ける)

栃木県／地域の特徴(学習者と学習内容の多様性に合う学校づくり)、**学習者/当事者第一**、学習者への姿勢:寄り添う、尊重・尊敬の念、学習者と応援者の関係は固定的ではない[ともに学ぶ]、応援者も学び続ける;栃木駅に近い県立学悠館高校内設置のメリットを活かす(中高の連携と交流、高校進学、全県を見据えた運営:オンライン授業の試行・実施、自主夜中等との交流など)、進路を大局的に捉える(大学進学なども視野に)など

○ 吉富志津代さん(5分)NPO法人たかとりコミュニティーセンター

母語の運用能力の保持・向上が、第二言語習得にとって重要であるなど。

栃木県
「夜間中学の必要性、意義、あるべき
姿を考える」シンポジウム

栃木県立夜間中学開設にあたり 求められること

2024年7月15日

関本 保孝

(元東京夜間中学教員・基礎教育保障学会・えんびつの会)

1. どんな生徒が夜間中学で学んでいますか？

(1)現在の夜間中学生(2023年9月「第69回全国夜間中学校研究大会・大会記録誌」より) ①生徒総数:1824人(44校)

②既卒者:577名(31.3%) 既卒内訳:日本人549人中・既卒355人(64.7%)、

新渡日外国人1070人中・既卒141人(13.2%)、その他の生徒128人中・既卒18人(14.1%)

※下記「生徒層別生徒数」は未提出校があり、①より「生徒合計総数」が少ない。

③生徒層別人数:【A】新渡日外国人1070人61.2%

【B】日本人549人30.1% 【C】在日韓国・朝鮮人78人4.3%

【D】中国等からの帰国者43人2.4% 【E】日系移民5人0.3%

【F】難民2人0.1%

③生徒の出身の国籍・地域：40

④年代別人数：15歳未満2名、10代後半440名、20代331名、30代238名、
40代242名、50代190名、60代141名、70代141名、80代以上85名

⑤性別生徒数：男子576名(35.9%)女子1027(64.1%)

※男女別データは2021年9月のものです

○新渡日外国人は6割で最多○多様な国籍・地域の生徒が在籍している

○十代から八十代以上まで学齢児も含め全世代が学んでいる

○女性の比率が約2倍 ○2016年以来、既卒者が大幅に増え3割を超えたといった特徴がわかる。

夜間中学は「多様な義務教育未修了者に応える学校」と言える。

2. 義務教育未修了者の声～学習権土台的人権

『全国への公立夜間中学校開設を目指した人権救済申立の記録』（2008年12月
全国夜間中学校研究会人権救済申立専門委員会）等参照。

「病院で受診科がわからない」「買物で割引が計算できない」

「字が読めず駅で切符が買えない」

「文字の読み書きが必要ない仕事しかできない」

「文字が書けないので選挙で投票できない」

「結婚後中学を卒業していないことがわかり離縁された」

「字が書けず我が子の出生届けの手続きを自分ではできなかった」

「障がいのため学校に行けず文字も読めず二重の苦しみを背負っている」

・外国人とその子どもの実例

「中国から日本の東北地方に来て母親が日本人男性と結婚したが、帯同した子どもが町の教育委員会から学齢超過を理由に昼の中学入学を断られ県内に夜間中学もなく母子で上京し夜間中学に入学し高校進学をめざした。」

「夜間中学がないため中卒認定試験の学習支援をしているが、多くの外国人は合格せず高校進学を諦めている」 等々。

義務教育未修了者の方々は、高学歴者社会日本で大変な不便と苦痛を感じ人間としての尊厳まで奪われている。学習権は「土台的人権」とも言え学習権保障なくして基本的人権の真の保障はない。

3. 画期的な2016年、義務教育機会確保法成立

- ①〇「義務教育未修了者の意思を十分に尊重しつつ、年齢・国籍その他の置かれている事情にかかわらず教育機会が確保されるようにする」(3条)
 - 〇「国・地方公共団体は教育機会確保施策を策定し実施する責務がありそのための財政措置を講ずるよう努める義務を負う」(4～6条)等が定められ、夜間中学に大きな法的裏付けを与えた。
 - ②文科省「義務教育の段階における普通教育に相当する教育の機会の確保等に関する基本指針」(2017年3月31日)
- 個々の生徒のニーズ踏まえ小学校段階の内容を含め生徒の年齢・経験等の実情に応じた教育課程の編成、必要な日本語指導充実が必要

4. 今、夜間中学開設にあたり求められることは？ 6

- ①十分な専任教職員体制必要⇒生徒の学力・日本語力を踏まえ、小学校課程クラス・中学校課程クラス・日本語指導特別クラスの設定が必須。(大学との連携も重要)
- ②入学受入:「十分学習できなかった中学校既卒者入学可」
「高校卒業者もケースバイケースで入学可」
- ③専任養護教諭・スクールカウンセラー等、生徒の健康と悩みに寄り添う教職員が必要
- ④重要な食事であり日本文化を知るため給食実施は必須
- ⑤多様な世代・文化・個性をもつ生徒にとり学校行事は重要
- ⑥就学援助:安定した学校生活のため必要

7

- ⑦バリアフリーが重要:「車いす」「身体の不自由な高齢者」等のためのエレベーター・スロープ・多機能トイレ必要
- ⑧広域的な生徒受入:県内在住者以外の受け入れも必要
- ⑨年間を通した受入を:夜間中学は「救急学校」であり、最大限、年間を通した受け入れが必要
- ⑩民間団体との協力が不可欠:民間団体や市民の見学受入や交流、開設後の運営に民間団体・生徒参加、学習支援ボランティア受け入れが学習困難な生徒にとって重要
- ⑪県内での2校目3校目の夜間中学開設が必要
- ⑫県内全域での教育機会確保のためオンライン・通信制活用が必要



じしゅやかんちゅうがく うつのみやこう とちぎ 自主夜間中学 宇都宮校

やかんちゅうがく しじょう がっこう かよ ひと ふとうこう ひと ふとうこう ひと
 夜間中学は、事情があつて学校に通えなかった人、不登校の人、不登校だった人、
 そつぎょう まな なお ひと
 卒業したけど学び直したい人、にほんごをべんきょうしたいひと などが
 まなんでいる ところです



日本にきたばかりです

にほんごのべんきょうをしています



学校にあまり行けなかったので...勉強楽しいです

算数を小4の内容から復習しています



学校でも勉強したけどもっと学び直したくて

社会のいろいろなことをまなんでいます

あなたの
まな
学びたい！ に
こたえます



中学のとき不登校でした高校や大学もめざしたい

英語を基礎から勉強しています



にほんごのべんきょうとがっこうのべんきょうをしています



外国から来て日本の中学校に入りました楽しいです

ばしょとじかんはうらに



ほかにも いろいろなべんきょうをしているひとたちが います

ボランティア募集中！
くわしくは、裏面に

だれでも はいれます
おかねは いりません

見学(けんがく)に きてください でんわ、メールを してください

メール Mail: konbanwa.tochigi@gmail.com

でんわ Phone: 090-7208-2536

毎週日曜日（まいしゅう にちようび）

うけつけ 受付: 午後 5 時 30 分から
 じ ぶん がくしゅう じ じ 学習: 午後 6 時から 8 時
 ばしょ 場所: 宇都宮市 東生涯学習センター



うつのみやえきひがしぐち
 JR 宇都宮駅東口 から
 ある ぶん 歩いて25分



日曜日(にちようび)のバス

がっこう
 【学校に行くとき】
 うつのみやえきひがしぐち ほんの ば
 JR宇都宮駅東口 4番乗り場
 ひがしとしょかんけいゆ ひらいでこうぎょうだんち ゆき
 東図書館経由 平出工業団地 行
 ごご じ ぶん ひがしとしょかんいりぐち ごご じ ぶん
 午後5時20分 ---- 東図書館入口 午後5時24分
 (17:20) (17:24)
 ある ぶん
 歩いて3分

がっこう
 【学校からかえるとき】
 ある ぶん
 歩いて6分
 だいくてんばし ごご じ ぶん
 大黒天橋 午後8時2分 (20:02)
 うつのみやえきひがしぐち ごご じ ぶん
 ---- 宇都宮駅東口 午後8時9分 (20:09)
 さいご
 これが 最後のバス です

ボランティア（パートナー）募集中！

共に活動していただけるボランティアをパートナーと呼んでいます。
 学習者に寄り添い、共に学び成長することができる方。資格・経験は問いません。
 まずは見学においでください。ご連絡お待ちしております。

メール: konbanwa.tochigi.office@gmail.com

電話: 090-7208-2536



X (旧Twitter)
 まいにちの
 できごとなどを
 はっしんして
 います



FACEBOOK
 かいこうびの
 あんないなどを
 おしらせて
 います



ウェブサイト(HP)
 やかんちゅうがくの
 ようすを
 しょうかいしています

<https://tycu.cloudfree.jp>

た よう まな きょうしつ 多様な学び教室

だれでも いつからでも いつまでも

しょうちゅうがっこう き そ て き がくしゅう にほんご がくしゅう
小中学校の基礎的な学習や日本語の学習など

場所：宇都宮大学 峰キャンパス 4号館4F 4B42教室
日時：毎週水曜日 14：20～19:10（部分参加も大丈夫です）

無 料

共催：「宇都宮大学国際学部附属多文化公共圏センター多様な学び研究会」
「とちぎに夜間中学をつくり育てる会」

* 問い合わせ先 *

とちぎに夜間中学をつくり育てる会 田巻 松雄

電話: 090-7731-9345

E-mail: tochigiyakanchugaku@gmail.com



多様な 学びの場をつくる

外国につながる学習者たちの 教育から考える

駒井洋 監修 田巻松雄、吉富志津代 編著

移民がホスト国定着するために必須と考えられる教育の現状を考える。現在の公教育、高校・大学での外国につながる子ども・若者の受け入れはどのように、どの程度進んでいるか。子ども・若者の居場所づくりや学びの場にかかわる執筆者たちが多様な視点から語る。

◆内容構成

「移民・ディアスポラ研究」12の刊行にあたって
はじめに [駒井洋] [田巻松雄]

第1部 高校・大学入試における特別定員枠の意義と課題

- 第1章 「外国人の子どもが社会で自立していくため」の
高校での「適切な教育」の在り方 [小島祥美]
- 第2章 大阪における特別定員枠について [櫻井謙]
- 第3章 神奈川の特別枠「在県外国人等特別募集」
——継続調査を踏まえた行政とNPOの協働による拡充のプロセス [青田美穂]
- 第4章 私立大学における「外国にルーツを持つ生徒対象入試」
——東洋大学社会学部国際社会学科の事例から [村上一基]
- 第5章 宇都宮大学国際学部の実践
——国立大初めての外国人生徒入試 [田巻松雄]

第2部 学校—公立夜間中学、高等学校定時制・通信制課程

- 第6章 外国人生徒が学ぶ学校
——公立夜間中学と定時制高校を中心に [田巻松雄]
- 第7章 東京における定時制高校
——多文化共生とインクルーシブな学校へ [角田仁]
- 第8章 北関東(栃木・茨城・群馬県)における定時制課程
[田巻松雄・井田綾]
- 第9章 通信制課程——もう一つの可能性 [小橋剛]
- 第10章 日系ブラジル人大学進学者の就学歴と
キャリア形成についてのケーススタディ
——全日制、通信制、私立大学、チャータースクール [鄭安君]

第3部 学校以外の多様な学びの場

- 第11章 外国人学習者の学びの場としての自主夜間中学
[田巻松雄]
- 第12章 「多文化共生センター東京」の活動 [柳木典子]
- 第13章 移民子弟の多様な学びの場
——言語教育と制度的生活文化としてのAMAUTA [小波津ホセ]
- 第14章 在日コリアンから外国につながる子どもの
人権保障&共に学ぶ場
——だれもが夢を持ち、いきいきと生きていくために [原千代子・鈴木健]
- 第15章 西和自主夜間中学の取り組みから [山本直子]
- 第16章 NPO法人たかとりコミュニティセンターの取り組みから
[吉富志津代]
- 第17章 学び続けるための支援
——あーずがらご外国人教育相談の取り組み [加藤佳代]
- コラム1 教育組織における真の教育の理念の重要性 [駒井洋]
- コラム2 高校進学を振り返る [石斐漢]
- コラム3 AMAUTAの元学習者— 二郎 [小波津ホセ]
- コラム4 たぶんかフリースクールの卒業生として [徐緒隆]
- コラム5 イラン大使館内の高校から日本の大学へ [ルヒナマヘルブーナ]
- コラム6 学習支援の経験を生かして公務員になった [白聖聖/佐々木聖聖]

おわりに [吉富志津代]

ご注文方法

◎書店購入の場合

このチラシを最寄りの書店へ持参の上、ご注文下さい。

◎直接販売:クレジットカード決済

右のQRコードからクレジットカード決済をいただいた方には、送料無料で直送いたします。

◎直接販売:代金引換または請求書払い

基本的に代金引換にて発送いたしますが、公費支払いをご希望の方は請求書払いも可能です。その際、書籍代に加えて手数料一律500円ご負担いただいておりますのでご了承ください。



明石書店

〒101-0021
東京都千代田区外神田6-9-5
TEL.03-5818-1171
FAX.03-5818-1174
URL=https://www.akashi.co.jp/
E-mail = eigyo@akashi.co.jp
■図書目録送呈

駒井洋 監修
田巻松雄/吉富志津代 編著

小島祥美
櫻井謙
角田仁
村上一基
青田美穂
原千代子
鈴木健
山本直子
加藤佳代
石斐漢
徐緒隆
ルヒナマヘルブーナ
白聖聖

多様な
学びの場をつくる
外国につながる学習者たちの
教育から考える



●定価 3,520円(本体3,200円+税)
ISBN 978-4-7503-5781-2 A5判/並製/304頁

番線印

冊

移民・ディアスポラ研究12

多様な学びの場をつくる

外国につながる学習者たちの教育から考える

駒井洋 監修 田巻松雄、吉富志津代 編著

フリガナ

TEL

お名前

ご住所 〒

ISBN 978-4-7503-5781-2

●定価 3,520円
(本体3,200円+税)

宇都宮で夜間中学シンポ

元生徒ら重要性主張

義務教育を十分に受けられなかった人たちが学ぶ「夜間中学」のあるべき姿などを考えるシンポジウムが15日、宇都宮市内で開かれた。不登校を経験した元

生徒は、夜間中学を「人と人の関わり方を学んだ場所」とし、海外出身の女性は「進学の夢を後押ししてくれた場所」と重要性を訴えた。2026年度には県内初の



自主夜間中学での体験を語る村山さん(15日午後、宇都宮市)

公立夜間中学の開校が予定されており、参加者は「個々の生徒に応じた柔軟できめ細かな支援をしてほしい」と期待を込めた。シンポジウムは「とちぎに夜間中学をつくり育てる会」などが主催し、約100人が参加した。初めに生徒の立場で2人が登壇。東京都内の公立夜間中学を卒業した秋元伸一さん(38)は、小中学校で不登校を経験した。他人と話せない状況だったが、夜間中学では個別に声を出す練習をするなど、徐々に周囲と打ち解けたという。「全

てが将来に必要なことだったと思う」と語った。

民間主体の「とちぎ自主夜間中学宇都宮校」に通う宇都宮工業高の定時制課程3年村山エマリンさん(32)は、涙をこらえながら十分に学べなかった過去を振り返った。祖国のフィリピンでは、家計を助けるために小学生の時からメイドとして働いたといい、「日本で高校に進学できたのは自主夜間中学のおかげ」と感謝した。2児の母でもある村山さんは「いっぱいはいだった時、『急がなくて大丈夫ですよ』という言葉で気が楽になった」と話した。

札幌市内で1990年から続く自主夜間中学「札幌遠友塾」の元代表工藤慶一さんは「学びの主役は生徒。生徒の実情に合わせ、常に変化し続ける学校であるべきだ」と強調した。自主夜

間中学と公立夜間中学の連携の大切さも訴えた。

登壇者からは他に、「オンラインの活用など、県内全域の学びのニーズに応える工夫を」「県外在住者の受け入れも検討してほしい」といった意見が出た。

(小口華奈子)

ニーズ把握 民間と連携を

2026年4月に開校予定の県立夜間中学について、県教委は基本計画案をまとめた。学校規模や対象生徒、修業年限など学校としての大枠を示したのみで、教育課程や授業形態、教職員や専門家の配置など、具体的な中身は今後検討するという。

これまで有識者による意見交換会が5月と7月の2回、開かれた。初回は非公開で行われ、2回目ですぐに基本計画案ができていた。これでは議論が煮詰まったと言いがたい。入学希望者のニーズを把握するためにも、県教委は民間団体と連携して準備していく必要がある。

県立夜間中学は、栃木市の県立学悠館高の校舎内に設置する。基本計画案では学校規模を1学年1学級35人以内とする。対象者は原則として県内に住み通学が可能な年齢経過者（満15歳以上）とする。原則として4月入学、修業年限は3年とした。ただし校長の判断によって年度途中でも入学を可能とし、学習状況を踏まえて3年以上の在籍も認めるとしている。夜間中学は年代も国籍も学力もさまざまな生徒が想定される。原則にとらわれない柔軟な対応を求めたい。

今年4月に開校した群馬県立夜間中学は、対面授業のオンライン配信や企業と連携したキャリア教育の推進、日本語指導の充実などが基本計画に盛り込まれていた。同様の取り組みについて、本県の有識者らによる意見交換会でも要望があったが、基本計画案には含まれていない。今後、どう反映されるのか注視しなければならない。

最大の課題は、背景の異なる生徒一人一人のニーズに対応できるかどうかだ。群馬県は基本計画策定の前に、入学希望者らに対する詳細な聞き取り調査を行っているが、本県は行っていない。

意見交換会では、NPO法人が運営する宇都宮市や小山市の自主夜間中学で学ぶ人々の多様なニーズを把握するよう求めた。意見交換会は本年度限りで終了する。だが開校に向けた課題は山積みだ。関係者とともに議論を深めてほしい。

教育機会確保法は、民間団体などとの密接な連携を基本理念に掲げている。自主夜間中学との連携は必然とも言えるが、意見交換会の構成員10人のうち自主夜間中学関係者は1人のみだった。

最大の課題は、背景の異なる生徒一人一人のニーズに対応できるかどうかだ。群馬県は基本計画策定の前に、入学希望者らに対する詳細な聞き取り調査を行っているが、本県は行っていない。

意見交換会では、NPO法人が運営する宇都宮市や小山市の自主夜間中学で学ぶ人々の多様なニーズを把握するよう求めた。意見交換会は本年度限りで終了する。だが開校に向けた課題は山積みだ。関係者とともに議論を深めてほしい。

おわりに

「義務教育の段階における普通教育に相当する教育の機会の確保等に関する法律」(教育機会確保法、2016年12月14日法律第105号)の制定を受けて、文科省はすべての都道府県・指定都市に少なくとも1校の公立夜間中学が必要との方針を示し、全国の自治体に設置を求めている。公立夜間中学は新設が相次いでおり、2024年4月現在、31都道府県・指定都市に53校が設置されていて、2026年度までに12校の新設が予定されている。2018年度現在では、公立夜間中学は8都府県31校であったことを想起すると、急増ぶりには目を見張るものがある。

公立夜間中学の設置が関東圏で最も出遅れた栃木県は、栃木ならではのどのような夜間中学を目指すのだろうか。知事は「単に日本語だけを勉強したい外国人や、不登校経験者で、連日の通学が困難な人にはなじみにくいものとなっている」と、現在の夜間中学の課題に言及している。夜間中学の現代的な必要性や意義をどのように定義づけるか。出遅れたゆえの後発性をいかに活用するか、具体的には、既存の夜間中学から何を学び活かそうとしていくのか、そして、民間の多様な学び場との連携をどのような形で進めるかが大きな鍵となると思われる。

自主夜間中学との連携は多様な学び場との連携の軸を構成するであろう。県教育長は「宇都宮市と小山市にある自主夜間中学とも連携し、教育機会の充実を図る」と述べている。官民連携のあり方については行政からの発信を待つのではなく、市民の側から積極的に意見や提案を発信していくことが必要である。7月15日に開催した「夜間中学の必要性、意義、あるべき姿を考える」シンポジウムは、「夜間中学は市民も参加してつくっていく学校」であることについての理解を深め、官民連携のあり方を含めた公立夜間中学の設置準備過程および開校後のあるべき姿について様々な立場から語り合う開かれた討論の場であった。

本記録ファイルをご覧ください、当日参加いただいた皆さんには当日の熱気を思い起こしてほしい。当日参加が叶わなかった方には、登壇者の想いと考えに触れてほしい。そして、夜間中学に強い関心と期待を寄せる皆さんと一緒に「市民も参加してつくっていく学校」づくりのために考え行動していきたいと考えています。

シンポジウムの会場に入った途端に、参加者の多さとマスコミの取材陣に圧倒されました。私が感動したのは村山エマリンさんの冷静なスピーチです。10代の頃メイドを8年間続けたと言うことです。フィリピンでは子供がメイドをするのは珍しくないとのことと衝撃を覚えました。さらに、県内外からのパネリストの夜間中学に対する熱意がドンドン伝わってきて、

抱え込むことが出来ない程の感動に浸りました(国母仁)。

全国の公立夜間中学設置のための検討委員会設置の前提となる外部委員の選定結果を見ると、多くは真に考えて選定されている半面、員数合わせ的に名目上の選定をしているケースもある。しかしこの場合でも千葉のように、その後の経緯の中で改善を計っているケースがある。内々の段階ではあるが、本州のある県の検討委員の中に札幌市立星友館中学の校長が就任することが伝えられている。いかなる場合も、希望を捨ててはいけない(工藤慶一)。

本シンポジウムは、2026年4月に開校する「栃木県立夜間中学」を市民みんなでつくり育てていくことを願って開かれた、有意義で活気あふれる会となりました。公立夜中卒業者と自主夜中学習者の語り、自主夜中が公立夜中の開設過程と開校以後に積極的に関わるといふ講演から多くを学ぶことができましたので、座談会では2年後の開校をめざして率直な意見を述べ、夢や希望を語りあう絶好の場になったのではないのでしょうか。学びの本質を確認し、組織的協働を支える人と人とのつながりの大切さを実感しました(佐々木一隆)。

多面的なプログラムでありながら、テーマに向けて求心的に発言者の語りが進められ、意義深いシンポジウムだった。2026年栃木県に公立夜間中学設置を控えたこの時期に開かれたことも、非常にタイムリーで良かった(澤井留里)。

こんばんは!一生忘れることのない、心に響く会に参加できたことを嬉しく思います。当事者の声に勝るものはありません。今私たちに一番必要なお話でした。また、第二部の関係者の方々のお話を聞き、栃木はこれからだと勇気をもらいました。「感動」はなにかを実行するエネルギーとなります。特に夜間中の活動のエネルギーは決して減ることなく無限に増え続ける一方です。これを胸に、前を向いて一步ずつ進んでいきたいと思います(鈴木アリサ)。

とちぎに夜間中学をつくり育てる会の立ち上げ、その後自主夜間中学を開設と関わり、多様な教室の形成などに参加できて本当によかったと思うシンポジウムでした。人々の様々な思いと考えをいかにして大切にしながら、めげずに継続して進むことの大切さを感じました。シンポジウムのあと、登壇者の澤井さんから、「人間は信じるに足りると思うことができるような集い」との言葉を聞き、「信じる」ことは、希望を生み出すキーワードではないかと思いました(鄭安君)。

7月15日のシンポジウムは登壇者と参加者の一体感があり、和やかであたたかな雰囲気でした。形式的なシンポジウムではなく、参加者の心に沁みわたり今後につながる有意義なひと

ときでした。田巻先生の「前を向いて歩こう」の歌詞の「つくとちぎの場所(ここ)」「誰もが一緒に育てるとちぎの場所(ここ)」というフレーズが私の心にこだましています。

シンポジウムの参加者の皆様、「つくり育てる会」の皆様と一緒に「栃木県立夜間中学設立」に向けて、これからも学習者の心に真に寄り添って共に歩んでいきたいと、シンポジウムに参加して心から感じました。自分らしく明るい笑顔で気負うことなく、心ある皆様と一緒に、前を向いて歩んでいきたいです(戸井田公子)。

市民の提言が反映されるほど公立設立スケジュールに余裕のあろうはずもなく、高いハードルをただ下から見上げているのみ。当日、「夜間中学生の語り」をお聴きし札幌における協働の講演をお聴きしているうちに、設立過程に今回の提言が届くのか、といった意識が掻き消えていることに、ふと気づきました。今この場には信じるに足る人たちがいて、その経験を受け止める心のある人たちが集まっている、ということが実感できたのです。そして「この場」はいつでも、いく度でも立ち現れてくると分かったのです。この場に立ち会えたことに感謝します。(とちぎ自主夜間中学 宇都宮校 開校(2021年8月8日)にあたる記念すべき日に記す。山口哲男)

このシンポの目玉は前半の二人の体験談だと思います。義務教育を完全不登校で卒業した伸ちゃん、自分の向学心を支えに努力し続けるフィリピン人のエマリンさん。夜間中学は現在の教育制度からこぼれてしまう人たちの希望だと感じました。「市民がつくっていく夜間中学」をつくるために私もできることをしたいです(矢部昭仁)。

社会でみんながともに助け合って暮らしていくために、どんな子どもも一緒に学べる環境をめざす必要があります。公教育が届かない部分を、どのようにみんなで知恵をしぼって補っていくのかをしっかりと考えたいです。そのプロセスで、子どもたち自身も学び、そして生きる力をつけていくのだと思います(吉富志津代)。

夢や希望を抱きながら、早く学校に着きたいとの気持ちで登校し、元気な声で「こんばんは!」と声を掛け合い、楽しみながら学びあう、そんな素敵な夜間中学がつけられることを切に願っています。

本記録ファイルの作成に当たっては、相模原の夜間中学を考える会の吉田恵一さんに多大なご協力を頂きました。心より感謝申し上げます。

田巻 松雄

令和6年度

宇都宮大学国際学部附属多文化公共圏センター多様な学び研究会(代表 スエヨシ・アナ)

「とちぎに夜間中学をつくり育てる会」(代表 田巻 松雄)

共 催

「夜間中学の必要性、意義、あるべき姿を考える」シンポジウム(2024年7月15日)

2024年8月

発行／宇都宮大学国際学部附属多文化公共圏センター